

---

[2020 (令和2) 年度]

# 学園の事業計画概要

(2020(令和2)単年度及び2024(令和6)年度までの中期計画)

学校法人 **文京学園**

---



## I 2020（令和2）年度事業計画概要

### ～2019（令和元）年度総括と2020（令和2）単年度計画及び2024（令和6）年度 学園創立100周年に向けた中期計画～

#### I. はじめに

世界は今、歴史上のペストやコレラ、スペイン風邪と呼ばれたインフルエンザの大流行に匹敵するような新型コロナウイルスの蔓延に翻弄されています。

島田昌和理事長は対面での人と人の触れ合い、五感を通じたコミュニケーションが制限されるこのような時代だからこそ、建学の精神「自立と共生」を踏まえて、人嫌いにならずお互いを頼りとした人間社会を忘れずにいることを本学 HP に掲載された理事長メッセージで呼びかけています。そしてそのためにもネットでのコミュニケーションテクニックをいち早く身につけること、及び、新たなグローバル社会で更なる発展を遂げるための視野の広さ・正確な情報収集力の重要性を強調しています。

これはそのまま、「新たな日常」の中で学生が自ら道を切り開くための道しるべとなるものです。学園としては学生のネットワーク環境整備への支援も含めて対応しており、いよいよ5月7日より中・高・大・大学院でリモートによる授業を開始致したところです。

大学の保健医療技術学部卒業生は、いま新型コロナウイルスの影響を余儀なくされている医療系現場にて懸命に各々の業務にあたっています。そしてただでさえ平常時より遥かに心身の疲労を感じる立場でありながら、新入生に対して明るくも力強い激励メッセージを SNS 等通じて数多く投稿してくれています。

私どもはこのような卒業生の頑張りや激励にも力を得て、環境に決して臆することなく、むしろ、学生の成長と学園の変革のための大きなチャンスと捉えて、前進してまいります。

さて、思い返せば、昨年（2019）年度は天皇陛下のご譲位、そして令和への改元という大きな変化の年となりました。本学も学園創立95周年を迎え、創立記念日にあたる2019年10月23日には「学園創立95周年記念式典」を開催致しました。そこでは教職員表彰や卒業生によるパネルディスカッション等と併せて2021年の大学創立30周年、2024年の学園創立100周年及びその先に向けた将来構想が発表され、約700名の参加者一同が思いを新たに致しました。

教育・施設の両面でも大きな節目の年度となりました。

教育面では人間学部コミュニケーション社会学科の3年生が本郷キャンパスでの学びを開始、社会に直結した実践学習の場「まちづくり研究センター」（まちラボ）が本格稼働を開始しました。また本年4月からは人間福祉学科のうち福祉マネジメントコースを選択した学生がビジネス面での知識・ノウハウ習得のため、同様に本郷キャンパスでの学びを開始したところです。なお、来年2021年4月には看護学研究科の設立を予定しております(申請中)。

他方、施設面では、用途別ゾーニング計画に基づくBGハウス(法人事務局棟、2019年12月竣工)を新築し、法人事務局をBGハウスに移転。跡地となるS館8階を、講義室やゼミ室に改修いたしました。同時に、本年開催の東京オリンピック・パラリンピックを始め加速するグローバル社会への対応を一層強化すべく、留学生受入れ体制の充実や記念館2階教務スペースの受け皿等を目的としたユースハウス(新学生交流会館、2019年12月竣工)を新築。留学生宿泊施設の他に、グローバル文化交流のための茶室・和室や子ども英語教育センター等を設けました。いずれの施設も順調に稼働しています。

島田理事長は、2020年の新年の挨拶では、特に「『真の社会エリート』を育成することを追い求め続ける。」と表明しました。

この「真の社会エリート」を、「家柄や出身校等に基づくプライドやエリート意識の持ち主」ではなく、「人の多様性に敬意を示し、他人を大事にする『利他心』を心掛ける。そのことから自らのプライド=自尊心に基づいて行動できる人物」と定義付けています。これは創立者島田依史子先生の「人を裏切らず、徹底して人のために行動することで必ず人から認められる」という教えにも通じるものです。

このような多様性への敬意を踏まえた行動力に対応すべく、本学は時代に即した様々な実践教育の場を提供しています。例えば大学においてはユーラシア大陸各国を横断する「新・文明の旅」、ロンドン芸術大学との協働プログラム「KAWAGOE Wayfinding プロジェクト」、震災復興支援「『ラグビーのまち釜石』応援プロジェクト」等があり、また中高では科学探究プログラムによる仮説検証活動が活発に行われ、学園祭でのポスター発表他の形となって結実しています。この環境下でフィールドワークをすぐに開始できるわけではありませんが、前述のとおり、ネットワーク社会で通用する学生の育成のためにもネットを通じた新たな実践教育手法も併行して検討しているところです。

加えて、前述大学30周年を展望して開始した「大学開学30周年記念 大学通史」の編纂も、未来志向を持つ若い教職員が多数加わって順調に進捗しています。若手にとっては、学園の歴史を振り返るのみならず、建学の精神を始めとした学園アイデンティティの再確認、更には100周年を越えた持続的発展への想いの醸成につながるものと考えております。

環境面では少子高齢化の進捗は勿論ですが、「定員厳格化」やいわゆる「23区規制」が、教育現場や受験生の選択に少なからず影響を与えていることは否めません。そのような中でも、折角本学の教育に希望と期待を抱いて入学した学生が、中途退学するといった不幸な状況は回避しなければなりません。私どもは学生アンケート等を通じて得られる声に真摯に向き合い、学生一人ひとりにとって適した教育を実現すべく、よりきめ細かく対応してまいります。

新型コロナウイルス蔓延により一変した今後の社会で学生が成長していくためには、ネットワーク社会への適合力が必須です。元々、小学校学習指導要領におけるプログラミング教育必修化を始め、ICT教育重視の流れは確実だったのですが、その必要性が一気に高まったのは疑いなく、教育上の最重点課題の一つとして対応しているところです。しかしながら、如何にネットが発達環境下でも「ひと対ひと」の重要性は何ら変わりません。それが冒頭の理事長メッセージに込められた思いです。

他方、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」で示されている知識基盤社会とグローバル化社会の進展の中で生きる力、真の学力、教養、専門知識、思考力、コミュニケーション力など教育の質保証とその可視化が大学にも中学校、高等学校にも強く求められていることは言うまでもありません。大学においてはその検証機能の一つとしての第3期認証評価制度がスタート、本学も本年度受審予定にて、教育内容の一層の充実に取り組んでいます。

中学校・高等学校については、大きな変革の一步、国際バカロレア（以下 IB）校との教育提携を始動致します(申請中)。

具体的には、2021年に本学校舎の一部(進学棟)に IB 校が移転、世界標準の教育を開始、本学と様々な相互交流を行っていくものです。この提携を活かして伝統的日本型教育と世界基準教育とを融合したハイブリッド教育を展開してまいります。IB 校の理念である、多様性への適合、実践力の向上、奉仕活動等の社会貢献、といった概念は本学が創立者の島田依史子先生以来ずっと

と培ってきた理念との共通点も多く、教育力の更なる向上に必ずつながるものと確信しています。

以上を念頭に、昨年2019年度も法人事務局・各キャンパス教職員が様々な具体的な取り組みに果敢な挑戦を行い、大きな実績を残すことができました。主な取り組みとして、次の事項が挙げられます。

#### <法人>

- ・10月 創立記念日10月23日に「学園創立95周年記念式典」開催  
～約700名が参加して教職員表彰式、将来構想計画発表、卒業生との  
パネルディスカッション等を実施～
- ・(通年) 昨年度より3年間に亘り生涯学習センターで大学開学30周年記念連続  
講座開講中

#### <大学・大学院>

- ・5月 学生のあきらめない心を育てる「30kmウォーキング」開催  
～本郷キャンパスからふじみ野キャンパスまでをチームで歩く  
28年続く伝統行事に200名超が参加。交流のある中京学院大学・  
岐阜聖徳学園大学からも多数の学生・教職員が参加～
- ・5月 地元産業界等学内外80名が参加して「まちづくり研究センター(まちラボ)  
本郷お披露目会」実施
- ・7月 六本木ヒルズでのエスカレーター安全利用啓発活動「2列に止まって乗ろう」  
キャンペーンに本学学生が参画、視覚的効果が見込めるデザインを提案  
(8月にもNHKが渋谷ヒカリエで開催した同様のイベントに参画)
- ・8月 川越市にて本学とロンドン芸術大学との連携プログラム「Kawagoe Wayfind  
ing プロジェクト」を実施
- ・8月 ふじみ野キャンパスで主として地元の小学生を対象とした「子ども大学  
ふじみ野」実施。
- ・9月 震災復興支援「ラグビーのまち釜石」応援プロジェクト実施  
～本学コンテンツ多言語知財化センターの学生が、釜石市で開催されたラグ  
ビーワールドカップフィジー対ウルグアイ戦に合わせて「ねばーだるま型  
うちわ」を無料配布
- ・9月 「新・文明の旅+」プロジェクトで「バルティックデザインをめぐる旅」を  
テーマに本学学生がラトビア・リトアニアを訪問、現地学生と交流
- ・10月 淑徳大学との共催公開講座実施
- ・11月 ウズベキスタン国立世界言語大学と包括協定、交換留学協定締結
- ・11月 本学学生が「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」優秀賞受賞
- ・11月 本学学生が「キャンパスベンチャーグランプリ東京大会」で奨励賞と  
オーディエンス賞をダブル受賞  
～「新・文明の旅」プログラムへの派遣をきっかけに、ウズベキスタンでの  
「農機シェアリング支援プラットフォーム」を提案～
- ・2月 「Kawagoe Wayfinding プロジェクト」の成果報告と川越唐棧新商品の発表を  
「東京インターナショナルギフトショー」にてブース出展
- ・2月 釜石市と地域社会の発展・人材育成及び学術の振興に寄与することを目的  
とした包括連携協定締結

## <中学校・高等学校>

### 進学実績

今年度入試は、環境要因として入試制度改革の影響が色濃く反映されたものでした。具体的には、受験生にとっては来年度開始する新入試制度を控えた現役合格志向、また大学サイドでは、入学者定員厳格化、更には東京都区部に所在する各校にとってのいわゆる「23区規制」がこれにあたります。

本校も例外ではなく、全体として、入学段階では成績上位者が例年より少なかった学年ながら、三年間で着実に学力を向上させて、最終の模擬試験結果では昨年以上の上位者数を計上するまでになりましたが、今年度はそういった上位者の内、かなりの生徒が推薦受験を選択しました。安定・堅実志向の生徒が多かったのが実情です。

推薦受験は、スポーツコースや他コースAクラスの生徒たちにとっては主な進路決定の方式ですが、上記事情もあり、今年度は前述入試制度改革の影響から各大学が推薦基準要件を大幅に高く設定したため、推薦枠はあるものの、実受験につながらない状況が生まれました。

そして一般受験でも（在籍者に占める割合ではほぼ例年並ながら）合格者実数では昨を下回る結果となりました。上記要因に加えて、内的要因としては、生徒在籍数減少による一般受験に臨む生徒の絶対数減少が挙げられます。

他方、併設大学の合格者が大幅に増加したのは、本学園全体の教育への信頼感の一つの現れといえるかと存じます。

さて、以上の状況をレベルアップしていくために、中学段階から自身の明確な将来像の形成を促した上で、基礎学力を充実させるための指導を強化していきます。数学と英語における習熟度別授業展開、自習室制度の設定、全生徒との継続的かつ計画的な進路面談の実施など、成績下位者から上位者まで個々の実力に則した網羅的な取り組みを一層強化する予定です。また、新しい学力観〜リテラシーやコンピテンシー〜を測定して学内の諸活動を通してそれらの力がどのように身に付いていくかを可視化していきます。

こうした取り組みにより、本学の強みの一つであるポスター発表等で培った探究力・プレゼンテーション力や、SGHに根ざすグローバルな視野、更には部活動を通じた忍耐力、マネジメント力、目標への拘り、といった力などに磨きをかけ、推薦入試やAO入試における出願要件を満たし面接試験でも対応できるような成果を残していきます。このことは今後の一般受験に対応する受験学力以外のより総合的な学力を身に着けさせることにも有効だと考えます。

大学合格実績については、従来の合格者数を延べ数で提示するような手法では受験生及びその保護者にご理解頂くのは不十分だと考えております。一方で、肌理細かい指導により生徒の学力を伸ばす教育力が本校の強みであることは、今年度卒業生の三年間の成績推移でも明らかです。この強みを活かし、それぞれの生徒たちの進路目標を実現していくことで、実数に基づく進路実現力を明確に打ち出していきます。

上記達成には日常の地道な探究活動等が必須です。以下、その諸活動の一端をご紹介します。

### グローバル視点も含めた様々な探究活動

○中学校高等学校3コース制度（中学校：Global Studies・Advanced Science・Sports Science /高等学校：国際教養・理数キャリア・スポーツ科学）を実施しての4年目となり中学高校の6学年で運用。中高共に3コースでの探求活動の成果報告会（研究発表・ポスターセッション）を実施（高校12月・中学1月）。

○SSH指定期間から継承したサイエンス関連の主な活動

・PCSHS-Phet（タイ国のMOU教育連携校）との科学交流

本校（4月）とタイ（1月）で相互訪問しながら科学交流「サイエンスフェア」開催

- ・リバネスサイエンスキャッスル出場(5回出場) 最優秀ポスター賞受賞 (12月)
- ・科学チャレンジのJSEC (日本高校生科学技術大賞) 審査委員奨励賞入賞 (12月)
- ・つくば ScienceEdge2020 へ参加 (つくば国際会議場開催) (3月)
- 「SGHアソシエイト」指定(5年目)を受けたグローバル関連の主な活動
  - ・リトアニア アウレスウス・ジーカス先生講演会 『カウナス スギハラを、日本を想う』 上映と講演会 (4月)
  - ・SGHプロジェクト「アジア研究」開始(高1高2) (4月)
  - ・海外研修実施 Maple BEST (カナダ:中3) English Intensive Camp (米国:高1高2) UK BEST (英国:高1高2) Aussie Global (オーストラリア:高2)
  - ・ニュージーランド提携校3ヶ月派遣留学(高2) ロータリークラブ留学 ドイツ(高2)
  - ・Atlantic Pacific 主催「海のサマースクール」(高1高2)(8月)
  - ・「空間力プロジェクト」中学校 都電の旅(中1) 横浜(中2) 鎌倉(中3) (10月)
  - ・アジア5大学来校(アジア研究生徒と交流会)(高1高2)(11月)
- 「スポ学教育センター」関連の主な活動
  - ・スポ学講座:「走り方と体幹トレーニング」(高1高2) 金 哲彦氏(7月)
  - ・オリンピック・パラリンピック 教育推進事業 夢・未来プロジェクト(10月) 「YOKOSOプログラム」の実施 バスケットボール五輪出場 小磯典子氏
  - ・スポ学講座:(11月~1月)
    - 「筋肉のつながりを考えてみよう!」千葉県立保健医療大 江戸優裕氏
    - 「最強の組織作りとチームビルディング」日本女子体育大学 芳地泰幸氏
    - 「女性のからだとスポーツ」 文京学院大学 千代丸正志氏
    - 「テーピング」(高1・高2)了徳寺大学 最上 忠氏
    - 「身体を思った通りに動かす」文京学院大学 濱田裕幸氏

### 主なスポーツ、芸術活動

- ・中学バレーボール部 第54回関東大会(9年連続29回目)出場  
東京都 春季大会・新人大会 準優勝  
第33回全国都道府県対抗中学バレーボール大会 優勝(大阪府)  
東京都選抜チーム (中3)田中咲樹、諸田亜美、川寄亜美
- ・高校バレーボール部 関東大会(26年連続27回目)準優勝  
東京都 全日本高校選手権大会(春高バレー)予選 優勝  
春高バレー全国大会出場(3年連続11回目)  
第16回女子U-18(ユース)世界選手権大会(エジプト)  
第5位  
(高1)廣田あい U18日本代表メンバーに選出
- ・中学新体操部 東京都 学年別新人大会学校対抗戦 中学2年2位 中学1年8位
- ・高校新体操部 東京都 関東大会予選・インターハイ予選 団体5位
- ・中学サッカー部 東京都 U15リーグ 2部リーグ 6位
- ・高校サッカー部 東京都 全日本高校女子サッカー選手権大会予選 ベスト8  
東京都 高体連 TOP リーグ 第4位
- ・中学ソフトテニス部 東京都 総合体育大会 (個人) ベスト8 関東大会出場  
東京都 私学大会 (団体) 優勝 (個人) 優勝・3位
- ・高校ソフトテニス部 東京都 関東大会予選 (団体) ベスト8

	東京都 インドア選抜大会 (団体) 第5位
・カラーガード部	ジャパンカップマーチングバンド・バトントワリング全国優勝
・チアダンス部	USA School & College Competition 2019 East 中学高校共に全国大会出場権獲得
・吹奏楽部	東京都吹奏楽コンクールA組出場 銅賞
・書道部	第35回高円宮杯日本武道館書写書道大展覧会 入賞5名 第28回国際高校生選抜書展 入選5名
・ボート部	第74回国民体育大会(茨城)ボート競技 少年女子 舵手つきクォドルプル(4人組)優勝 (高3) 郡磨璃

## <文京幼稚園>

### ○創立65周年を迎えて

令和元年度は、本園が創立65周年の年となりました。記念行事として、12月22日(日曜日)に本学仁愛ホールをお借りして「創立65周年記念親子鑑賞会」を開催しました。影絵パフォーマンスを演じる劇団「かかし座」を招き、『長靴をはいたねこ』を鑑賞しました。美しい色彩の影絵と役者も登場しての演劇を在園児とご家族、卒園児とご家族に楽しんでいただきました。

### ○子育て支援の充実

月1回の「育児相談(スクール)カウンセラー」(臨床心理士)の配置は本年度で3年目になりました。保護者にとって、子どもの発達や保護者自身の悩みを相談できる機会は貴重です。利用希望の保護者が直接カウンセラーに申し込み、実施場所は大学応接室であることも、利用しやすい理由になっています。またカウンセラーには、空いた時間に園で「指導を要する園児」を観察してもらい、指導に関するアドバイスを職員が受けられるようにしているため、園児のケアとその保護者対応をより深く進められました。

「預かり保育」は今年も夏休み期間中に計6日間の「夏スマイル」(朝8時から12時まで、8月後半は午後3時まで)を実施しました。年中・年長児を対象としましたが、多い日は、50名以上の利用がありました。要望が多く聞かれるため、次年度も開催する予定です。

### ○教員の資質向上を目指して

今年は、様々な形で教員が学ぶ機会を設けました。5月には「日本保育学会」が都内で開催されたため、専任教員全員が研修の一環として参加し、様々な発表や講演を聴きました。

6月にはふじみ野キャンパスにて「ふらっと文京の研修会」参加、7月には「救急救命講習」を受講、8月は本園スクールカウンセラーに「ピカジップ法」の研修を依頼し、学びの時間を持ちました。その他12月にふじみ野幼稚園との「二園合同研修」を本園で開催、1月には「文京区私立幼稚園連合会教諭研修会」に参加しました。

その他、ふじみ野幼稚園と本園で作成している「幼児教育研究」に園内研究の成果を文章で発表する予定です。様々な研修での学びを保育の資質向上に繋げていきたいと考えています。

## <ふじみ野幼稚園>

### ○預かり保育の充実

夏季休暇中の預かり保育をより一層充実させた。14日間の預かり保育に73名の園児が利用し、延べ514名でした。普段の預かり保育は日々利用者が増加しています。利用理由は、二号認定ではないがパートでの就労の方の利用、子ども自身が預かり保育に行きたいという希望、母親の幼



児やリフレッシュが挙げられます。12月末現在の利用状況は2108名（昨年度1810名）であり、月30人ずつ増加していることとなります。二号認定については18名のみです。労働時間と担当教員（担任・補助教諭・パート）の適切な配置ができれば長期間の夏の預かり保育の充実を図ることができます。

#### ○インクルーシブ保育の重要性

障害の診断名があり加配制度を利用している園児が9名存在します（補助金対象）。引き続き、特別支援児を含めたインクルーシブ保育の体制構築と質の向上に努めます。幼児期から健常児が特別支援児と共に生活する経験（共生）を大切にしながら思いやりの心を育てていきます。

#### ○日本語を母国語としない外国籍の子どもへの対応

現在、年少に1名、年中に4名、両親ともに外国籍の園児が在園しています。また、母もしくは父、いずれかが外国籍の方が64名います。日本語を母語としない外国籍の方同士のつながりは深く、幼稚園側からのお知らせが上手く伝わらない時に日本語をよく理解している保護者がそうでない保護者に伝えてくれたり、援助の手をさしのべてくれたりしています。その分、他の方とのかかわりが薄い傾向にあります。その分、子どもの言葉を習得する速さも以前より遅い気がします。母国語を理解し合える友人がいるので、日本語を必要としない部分も出てきているためであると思います。

これらの成果として、学園全体の教育力の向上、グローバル教育の推進、高い大学国家試験合格率、安定した就職内定率、等が特筆されます。学園として、大学では、具体化・加速化している高等教育改革を踏まえた新たな3P（アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー）が制定、それがPDCAサイクル上でも適切な形で展開されており、また、中学校・高等学校においても、少子化を背景とした厳しい募集環境下において、これまでの伝統を大切にしつつも、国際化に軸足を置いた「新しい中等女子教育のあり方」の実践が進んでおり、2019年度は、真に、教職員一丸となって取り組んだ年であったと評価できるのではないかと思います。

上述致しました取り組みと実績を更に具現化するため、以下、2019（令和元）年度の取り組み状況総括と併せて、2020年（令和2）年度の重点目標と事業計画についてご説明してまいります。

## II. 2020（令和2）年度

### ◎【新型コロナウイルス対応】

新型コロナウイルスの感染拡大阻止のための政府の緊急事態宣言に基づき、本学も各設置校の園児・生徒・学生等の在宅と教職員等の可能な限りのリモート勤務を実施するところです。

5月7日からは、中・高・大・大学院はリモートによる授業提供を開始しています。

大学においては、教職員がリモートによる授業提供準備に丸となって取り組み、学生に対しても自宅において授業が円滑に受けられるためのサポートを実施してまいります。今年度予算においても、そちらの支援のための緊急予算措置を柔軟に迅速に実施していく予定です。

このような緊急状況下ではありますが、本年2020（令和2年）度も中長期的な視野も含め、以下のような計画に基づき運営してまいります。

### 1. ◇2019（令和元）年度総括と2020（令和2）単年度計画及び2024（令和6）年度中期計画

#### <大学>

#### 「B's ビジョン 2024」の策定と実行状況

2015～16年 川邊学長(当時)の諮問を受けて、将来構想委員会が設置され、既存制度的な枠組みを利用した策定を目指し、以下の4つのビジョンを策定した。

- ① 「国際化に対応した地球市民の育成」
- ② 「教育力日本一を目指す大学」
- ③ 「ストレス耐性のある人材育成」
- ④ 「永久サポート大学」

この4つのビジョンを実現していく重点戦略の提案とプロジェクトを提唱し、2016(平成28)年5月に工藤学長(当時)に答申を提出した。その結果、①「国際化に対応した地球市民の育成」②「教育力日本一を目指す大学」③「ストレス耐性のある人材育成」④「永久サポート大学」のビジョンを目指し、その具体的な取り組みを通じて、②「教育力日本一」を目指すとした。

また、ビジョンの実現を目指すために、次の10の重点戦略を策定した。即ち、①「教育改革戦略」②「研究活動戦略」③「学生支援戦略」④「国際化戦略」⑤「入試広報戦略」⑥「キャリア支援戦略」⑦「地域連携戦略」⑧「経営戦略」⑨「運営戦略」⑩「ブランドイメージを構築する」の10戦略である。

これら重点戦略の実現のために、担当各部門の長からなるB's ビジョン実行委員会が結成され、2016（平成28）年度中に答申内容を再吟味し、重点戦略実現のためのプロジェクトの取捨選択と補完をし、100周年に向けての長期計画（8年）、中期計画（前期4年、後期4年）、そして各年次の実行計画を策定し、PDCAを回すこととなった。現在、2019（令和元）年度の進捗状況を確認し、2020（令和2）年度の計画を立て、櫻井学長の指導の下、実行に移す。

以下に、B's ビジョン 2024の4つのビジョンと主要8重点戦略の中期計画及び単年度の実行計画を簡略化した形式ではあるが提示する。

#### ◇B's ビジョン 2024の4つのビジョン

##### ◆国際化に対応した地球市民の育成

日本人としてのアイデンティティを持ちながら、ダイバーシティを尊重し、共生できるグローバル人材を育成します。グローバル人材が必要とする能力は、コミュニケーション力、時代

を読む情報収集能力、物怖じせず他者と関わる力であり、海外での経験を積み国際的視点を養います。

#### ◆ストレス耐性を持った人材の育成

本学の学習成果のひとつとして、学生がそれぞれ自身の現在の知識と技能および将来の目標を認識し、能力も考え方も異なる他者とのコミュニケーションや協働行為に自信をもって参加し、自己の意志を表出でき、問題発見・解決能力を発揮し、また想定した結果が得られない解決困難な課題に対しても、努力し挑戦できる人材を輩出します。

#### ◆永久サポート大学

在学時は当然のこととして、卒業後も学び直しを支援し続けることで、10年後にはそれぞれの職場にて中堅管理職クラス（リーダー層）として継続して活躍する人材を目に見える割合で増加させるとともに、学内にいる頃から世代を超えた交流を促進します。大学はすべての文京学院生や卒業生のライフパートナーです。

#### ◆教育力日本一

教育力とは、社会に役立つ力、すなわち社会の変革や、社会にとっての新たな価値を生み出せる力を育むことと捉え、社会の問題を自らの課題として積極的に関わって自分を作っていくことができ、いなくなると困るような人材を育成することにおいて日本一を目指します。そのための教育体制と環境を整え、ストレス耐性のある人材育成、地球市民の育成、地域社会とともに少子・超高齢化社会を支える人材の育成等につなげていきます。

### ◇2019(令和元)単年度実施事項 2020(令和2)単年度計画及び 2024(令和6)年度中期計画

#### ◎ブランディング戦略

##### 【目指す姿】

新規設置の「大学ブランディング推進委員会」を軸にイメージ目標を再定義、的確な情報発信を継続するとともに、費用対効果に留意しつつ「何をどう伝えるか」の全体プランを描いて、ブランディングイメージを形成していく

##### 【足許では】

ブランディングイメージ形成に向けて「大学ブランディング推進委員会」新設、併せて「学生ブランディング委員会」も設置決定 他

単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① 広報委員会の活動推進：マスメディアを通じた情報発信、大学ホームページの運営管理の継続
- ② 本学としての望ましいブランドイメージ目標の構築：4月に各学部教授会、木曜会議等で実施概要説明  
⇒5月～7月に全教職員、学生向けアンケート実施  
⇒7月にOB・OG、同窓会役員へのヒアリング実施  
⇒7月13日にブランディングセッション実施⇒今後の予定として、以上の成果を再整理し広報委員会および大学運営会議で審議し9月の教職員研修会と10月の95周年式典で説明（共育力をコンセプトに）

- ③ 2020 年度の活動計画、予算、推進体制の検討、新たに「大学ブランディング推進委員会」を設置、「学生ブランディング委員会」も設置決定

#### 2020（令和2）年度計画

- ① 広報委員会の活動推進：マスメディアを通じた情報発信、大学ホームページの運営管理の継続、大学ホームページのリニューアル検討に着手
- ② 大学ブランディング推進委員会の活動：大学の統一スローガン（ブランド統一メッセージ）の開発と決定、「共有力」の説明ストーリーの開発と決定、「学生ブランディング委員会」の活動内容・活動スケジュール・メンバー募集、ブランドコンセプトムービー、コンセプトブックの開発、ブランドサイトの開設、「共育力」によって獲得した力の具体例を学生や卒業生から収集、教職員を巻き込んだインターナショナルブランディングの推進、マス広告や交通広告の必要に応じた展開、入試広報や大学広報に必要な応じブランディングメッセージを落とし込む

- 中期：①「伝えることでイメージ形成効果が高いもの」をピックアップし、それを素材として広報展開を図っていく。実体づくりと表裏一体で進めるわけで、これを確実に展開していくことが第一の課題
- ② 望ましいイメージ形成に必要な情報発信量を明らかにしつつ、どう確保していけるかが、第二の課題
- ③ 「何をどう伝えるか」の全体プランを、費用対効果を勘案しつつどのように描くかが第三の課題

### ◎教育改革戦略

#### **【目指す姿】**

文部科学省中央教育審議会を中心として進められる大学改革に沿いながらも、本学の理念、特に B's ビジョン 2024 の実現に向けた教育部門改革を進める。また国際化や地域連携推進のためにも、対外的な他者との連携機会を増加

#### **【足許では】**

- ・ストレス耐性のある人材育成への取組姿勢強化のために、各学部・学科ごとに「ストレス耐性(を伸ばすための)科目を設定(来期はシラバスにも詳述)
- ・キャップ制の一部解除(メリハリある教育)
- ・学習状況調査の分析・活用強化 他

#### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① ストレス耐性をもった人材育成：学部・学科の既存科目にストレス耐性科目を設定
- ② 教育改革：
  - ・GPA3.0以上の成績優秀者に対してはキャップ制解除済
  - ・高等教育の修学支援新制度に関連して、シラバスの改変を行い、学部学科ごとの成績分布のグラフ化や出席率の把握に向け情報教育研究センターと検討開始
  - ・新生に導入した基礎学力テストの活用方法の検討開始
  - ・学習状況調査を教務委員会主導で実施し、教学 IR 委員会に分析を依頼
- ③ 国際化：海外フィールドワーク等の各種留学プログラムの単位認定を各学部の教務委員会で随時実施済

## 2020（令和2）年度計画

- ① 国際化に対応した地球市民の育成：問題解決能力の育成・向上を目指した学修が、初年次教育科目を中心にどのようにできるか、各学部・学科で検討
- ② ストレス耐性をもった人材育成：履修要項に「ストレス耐性科目」として明示、シラバスにもその詳細内容を明記
- ③ 永久サポート大学：卒業生を中心とした社会人のリカレント教育の在り方（環境整備を含め）について、各学部・学科で検討に着手
- ④ 教育改革：
  - ・GPA3.0以上の成績優秀者に対してはキャップ制を外すことを履修要項に明記
  - ・高等教育の修学支援新制度に関連して、さらに出欠管理の厳格化をする必要性があり情報教育研究センターと検討を続行
  - ・前年度より新入生に導入した基礎学力テストを継続し学修サポート資料として活用
  - ・各科目のナンバリングに関する全学統一のルールおよび公開の手法を検討
  - ・学習状況調査を2020年度にも同様に実施
- ⑤ 国際化：海外フィールドワーク等の各種留学プログラムの単位認定継続

- 中期：① どのような他者とも協働して問題解決ができる能力の育成の実現（コミュニケーション能力、協働的問題解決力の育成）
- ② ストレスおよびストレスマネジメントに関する知識とスキルについて、健康科学、心理学、組織論など各学問領域からの機会提供
  - ③ 大学施設（図書館、情報システムなど）利用、授業やフィールドスタディなどへの参加の機会提供、情報システムを通じた授業公開等、卒業生への情報・機会の提供
  - ④ 教学IRデータを利用した学生教育と教育方針の内外への明示

## ◎研究活動戦略

### 【目指す姿】

「教育力日本一」の実現のために総合研究所が中心となって教員の学術研究及び教育を支援していく

### 【足許では】～継続的な取組み～

- ・学長裁量経費による教育力向上支援
- ・科研費申請推進と採択率向上
- ・ICT授業推進のための研究等、重要事項への共同研究助成の優先配分 他

### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① 以下の研究を共同研究助成の優先枠と位置付け
  - ・ICT活用授業の開発と発展に関する研究の促進
  - ・学部、学科を超えた研究促進
  - ・他大学、他機関、地域との研究促進（共同研究助成の趣旨に基づくものであり、共同研究助成・学長裁量経費にて実施）
- ② 科学研究費申請の推進と採択率の向上：堅調に推移しているが、申請件数は昨年度に比べ減少。今までエントリーしていない教員への促進。9/13教職員研修会にて「科研に係るコンプライアンスの件」実施済
- ③ 文京学院大学総合研究所叢書5の出版企画：教育力日本一実現のための研究の公

開と位置づけ、出版の企画を行う（学長裁量経費助成研究を中心として）

- ④ 在外研究員、国内研修者、出版助成の決定

#### 2020（令和2）年度計画

- ① 以下の研究を共同研究助成の優先枠と位置付け（継続実施）
- ・ICT活用授業の開発と発展に関する研究の促進
  - ・学部、学科を超えた研究促進
  - ・他大学、他機関、地域との研究促進
- （共同研究助成の趣旨に基づくものであり、共同研究助成・学長裁量経費にて実施）
- ② 科学研究費申請の推進と採択率の向上：各学部（研究科）で採択率向上のセミナー実施、共同研究発表会の出席率向上、共同研究から科研費へ申請・採択へ
- ③ 在外研究員、国内研修者、出版助成の促進
- ④ 「文京学院大学総合研究所叢書」の出版企画

**中期：**研究の萌芽の創生、若手研究者の育成、科学研究費申請の促進と採択率の向上、在外研究員、国内研究者制度の充実、出版企画の促進。また、これらを通して4ビジョンの実現にも可能な貢献をする。

### ◎学生支援戦略

#### **【目指す姿】**

- ・「自立と共生」を育むために学生の自治活動をサポートし、責任感ある学生を育て、地域から信頼される大学になり、学生と大学のアイデンティティを確立
- ・ストレス耐性涵養のために、挫折・失敗及びそこから立ち直り体験を個人発表させて共有、社会に出た折の指針とする
- ・永久サポート；また長期休暇中のOBによる指導システム確立等による教育力向上等

#### **【足許では】～継続的な取組み～**

- ・本学独自の多様な正課外教育メニューを軸としたストレス耐性強化及びUPI調査による現況把握フロー確立
- ・学生自治活動サポート体制確立  
～リスク管理：顧問ハンドブック配布、両キャンパス連携強化  
～活性化：東京五輪を照準にマナー、ボランティアを学ぶ環境整備
- ・奨学金：新規奨学金紹介、採用サポート

#### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① ストレス耐性正課外教育：
- ・正課外教育の構築：実習・インターンシップ・就職を想定したアサーション（自己表現）トレーニング、30kmウォーキング、五街道ウォーク、清流木曾川中津川リレーマラソン等の活動実施
  - ・学生のストレス状態の把握と対応：精神的健康度調査UPI（University Personality Inventory）で学生のストレス状況の把握と面接を実施、保健室・学生相談室・学生委員会の連携強化、教職員向け「学生メンタルサポートハンドブック」の活用と内容の見直し
- ② 永久サポート大学：
- ・永久サポート大学の実践・卒業生との連携：部活動の指導者として卒業生の

招聘、本学のオリジナルプログラム（30km ウォーキング、五街道ウォークなど）への卒業生の招聘、保健室等の学内施設の卒業生の継続利用

- ③ 国際化に対応し地球市民を育てる条件を整える：
- ・学生の自治活動のサポート体制の確立  
～運動部のスポーツ保険の義務化、顧問ハンドブックの配布、両キャンパスシステムの一部共通化により、より活発かつ安全な学生の活動を可能とした  
～2020年の東京オリンピックを照準に置き、マナー、ボランティア、コミュニケーションを学べる環境の整備を進めている
  - ・奨学金制度の確立：新規奨学金等の奨学金の紹介、書類作成、作文等支援を行い、学生の経済的支援を実施し、本年は篠原欣子記念財団の奨学金に本学学生3名が採用

#### 2020（令和2）年度計画

- ① ストレス耐性正課外教育：
- ・正課外教育の構築：実習・インターンシップ・就職を想定したアサーション（自己表現）トレーニング、30km ウォーキング、五街道ウォーク、清流木曽川中津川リレーマラソン等の活動の継続的实施
  - ・学生のストレス状態の把握と対応：精神的健康度調査UPI(University Personality Inventory)の実施、保健室・学生相談室・学生委員会の連携を強化し保健管理委員会の定期的実施を計画
- ② 永久サポート大学：
- ・永久サポート大学の実践・卒業生との連携：部活動の指導者として卒業生の招聘に関し大学からのフォローについて検討、本学のオリジナルプログラム（30km ウォーキング、五街道ウォークなど）への卒業生の招聘強化、保健室等の学内施設の卒業生の継続利用の体制整備
- ③ 国際化に対応し地球市民を育てる条件を整える：
- ・学生の自治活動のサポート体制の確立を進める
  - ・奨学金制度の確立：新規奨学金の開拓、関連部署と連携して留学奨学金の確立を目指す
  - ・地球市民としてのアイデンティティを確立できるプログラムの構築に向け検討する
- ④ 教育力強化の一環としての学生力活用：
- ・学習困難学生への強化：情報収集・集約、情報の管理、保護者（家庭）との連携等により早期発見、すなわちグレーな状況であってもサポートできる仕組みの確立を目指す
  - ・学習サポートセンターの一層の活性化

- 中期：① 学生の自治活動を活性化することにより、地球市民としての自立と共生の精神を涵養
- ② 部活やサークル活動を通しての成果を話し合う機会を構築し、ストレス耐性の正課外教育とする
- ③ 卒業生の専門性に基づいた講座等の開設により、卒業生との連携を深める
- ④ 教育力強化の一環として学生力を活用し、休暇中の学習サポートシステムを構築

## ◎国際化戦略

### 【目指す姿】

本学理念「自立と共生」に則り国際化に対応した地球に学び地球に生きる市民(「地球市民」)を育成し、多言語・多文化共生の実現を目指し、海外諸大学との提携・交流を推進し、研究・教育を通して国際社会に貢献する学生の育成

### 【足許では】

- ・医療・福祉系学科の多いふじみ野キャンパス全体での GCI スペシャル体制再構築  
～学部横断型プログラム GCI プログラムの利点を生かし、時代の要請に則したグローバル専門職の育成
- ・独自の教育プログラム「新・文明の旅」プロジェクト訪問国であるリトアニア・ラトビアの各大学との協定締結
- ・ユースハウス(新学生交流会館；2019年12月竣工)機能をフル活用した留学生との交流促進

### (国際交流センター)

#### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① 「新・文明の旅」継続委員会と共に関係大学との交流強化をはかる：リトアニア、ラトビアの大学、韓国仁荷大学（韓国内 Top15）との交換留学協定締結済、協定大学への講師の派遣：経営学部教員が北京理工大学で夏季集中講義(9月)実施（予定）
- ② 国際連携教育プログラムのプロモーション、拡充、内容強化：外国語学部のカリキュラムに編入、今年の参加人数 22 名（昨年 22 名）でカザフスタン、ウズベキスタンから学生 2 名ずつ計 4 名が参加（昨年は、カザフスタン 1 名、ウズベキスタン 2 名の計 3 名）
- ③ 学生派遣・留学説明会の充実：てっぺんフォーラム発表を通じての留学希望者の掘り起こし、交換や長期語学留学経験者による相談会実施、留学申請の受付期間中に留学経験者による各種相談会を実施（アメリカおよびオーストラリア長期語学留学、韓国交換留学、台湾交換留学、ブルガリア交換留学、アメリカ交換留学）
- ④ キャンパスの国際化の推進・留学生との交流促進強化：2019 年 12 月学生受入寮（ユースハウス）完成、また留学生の本学の各種行事への参加や経営学部・外国語学部のゼミとの交流、歓迎会や文京学院生との様々な交流を実施
- ⑤ キャンパスの国際化の推進・チャットラウンジの効率的運営：英語チャットラウンジ利用者数 742 名増加（前年比19%増）、スペイン語利用者数 37 名増加（前年比10 倍増）、韓国語利用者数 69 名増加（前年比4.6 倍増）、中国語利用者数 21 名増加（前年比7%増）

#### 2020（令和2）年度計画

- ① 留学制度の整備：
  - ・留学による単位の出し方を、全学教務委員会と連携して整備
  - ・留学制度の整備：留学業務のフォーマット化を進める
- ② 海外の提携大学との交流の拡大：学生・教員・職員のすべてのレベルでの国際交流を促進させる

- 中 期：① 交換留学協定締結校の維持・強化、拡大（五大陸に拡大）  
② 「ダブルディグリー・3年次編入」協定校の強化、拡大（全学部に拡大）  
③ フィールドワークの交換プログラム化、制度化（すべての協定校と）



- ④ 派遣学生の増加、質的向上（目標 10%の学生）
- ⑤ 受け入れ学生の増加（5%が外国人）
- ⑥ 「国際連携教育プログラム」通年化
- ⑦ 周年行事のタイムライン策定と実施
- ⑧ キャンパス国際化（掲示等の英語併記）
- ⑨ GSI 職員研修の制度化
- ⑩ 国際交流部など、学生組織の活用
- ⑪ 地域貢献（交流行事）

## (GCI)

### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① 学部横断型教育プログラムとしての GCI 体制の強化：大学運営会議の議決を受け、全学部学科に GCI 委員を置くことが各学部教授会で承認
- ② ふじみ野キャンパスを総 GCI スペシャル化：今年度中にカリキュラム素案作成、GCI スペシャルの再定義着手、すなわち従来の到達目標を踏襲しつつ、GCI スペシャルではより専門性に重点を置きながら必要とされるグローバル人材を育成していくことが確認され、GCI スペシャルはすべて入学後選抜とし、その素案も作成
- ③ GCI のコンセプト、カリキュラムストーリーの内外発信と認知度向上：従来のコンセプト、ストーリーを踏襲しつつ、GCI と GCI スペシャルの個性がより理解しやすいように設定
- ④ 学習意欲やキャリア意識の向上につなげる手段としての語学・異文化理解留学の活用：2019 年度の 1 年生の語学・異文化理解留学の参加者は 59 名（タイプログラム 17 名、マレーシアプログラム 19 名、中国プログラム 23 名）と過去最大の規模となり、2018 年度の 43 名、2017 年度の 27 名に比して着実に増加
- ⑤ 1 年次修了時の GCI 生の TOEIC スコアの平均を 500 点以上に：2019 年度入学生の平均スコアは 70 ポイント以上上昇し、GCI における教育成果が見られたと考えられるが、まだ目標には到達していない
- ⑥ GCI 生の就職意識強化：国内のインターンシップ先を新たに 1 カ所確保
- ⑦ 何らかの海外プログラムに参加して卒業する比率を 70%以上に：現状ですでに 90%を超えており、目標達成済

### 2020（令和 2）年度計画

- ① 2021 年度の GCI と GCI スペシャル化の新体制構築準備：カリキュラムの再編成が必要となり、ほぼ大筋の準備は進んでいるものの、募集要項、パンフレット、ウェブサイトなど、より具体的な対応を行っていく
- ② 学部横断型教育プログラムとしての GCI 体制の強化：GCI 委員を全学科に設置
- ③ ふじみ野キャンパスを総 GCI スペシャル化：そのコンセプトをより明確に内外に示し、入学後選抜方法についても確定情報を、募集要項、パンフレット、ウェブサイトに公開
- ④ GCI のコンセプト、カリキュラム・ストーリーの内外配信と認知度向上：従来のコンセプト、ストーリーを踏襲しつつ、特に GCI スペシャルにおける専門性＋GCI のコンセプトを内外発信して認知度向上を目指し、GCI についても当初のコンセプトをより明瞭に発信できるような科目名、カリキュラムを設定
- ⑤ 学習意欲やキャリア意識向上につなげる手段としての語学・異文化理解留学の活用：令和元年度新入生の語学・異文化理解留学の参加者 59 名に匹敵する規模の参加

者を目指し、各プログラムの内容についても留学先大学との十分な折衝を経てより質の高いプログラムを目指す

- ⑥ 1年次修了時のGCI生のTOEICのスコアアップ75ポイントを目指す：2019年度入学生は1年間で平均72.94ポイントアップしたが、2020年度はこれをベースに平均75ポイントの上昇を目指す
- ⑦ GCI生の就職意識強化：国内のインターンシップ先の開拓を行い、新GCIキャリアプログラム委員長就任により、新体制下でよりキャリア意識の向上を目指す
- ⑧ 何らかの海外プログラムに参加して卒業する比率を70%以上に：現状既に90%を超えているが、2020年度も1年次の語学・異文化理解留学の参加率のさらなる向上、長期留学プログラムの参加率のさらなる向上を目指す

中期：① GCI設立目的の実現

② 大学のグローバル化対応モデルの確立

### ◎入試・広報戦略

#### 【目指す姿】

- ・B'sビジョン2024の4ビジョンを積極的に告知し、ミスマッチ入学による退学者の減少を図る
- ・安定した学生募集のために、本学のビジョンやポリシーに共感する学生を集める特色ある入試制度と、普遍性のある一般的な入試制度の共存関係(混合)を構築

#### 【足許では】

- ・地理的条件を含めた学部学科の特性に応じた柔軟な入試制度採用による募集力強化に奏功(保健医療技術学部初のAO入試採用)
- ・国際化に対応できる優秀な人材をより多く迎えるためにGCIコンセプトの積極PR継続中
- ・入試制度・入試システムの早期大幅リニューアル及び高大接続改革への対応強化が喫緊の課題

#### 単年度：2019(令和元)年度実施事項

- ① ビジョンで求める人材を確保するための入試改革を常に行う：
  - ・作業療法学科の入試状況改善のため、保健医療技術学部初となる「AO入試」を導入し、高校への営業活動を合わせて強化した結果、12月段階ではほぼ確実に十分な結果を見込める状況となった
  - ・本年度より受験生の便宜を図るべくネット出願システムを全入試に導入したことにより、(受験生の)一般入試における併願の時間的コストが軽減されるので、少なからず受験者増に貢献
- ② 国際化に対応できる人材を優先的に入学させる：「外部英語試験」の導入により、一定層、国際化に対応できる人材が入学してきていると考えるが、本年度は更に「GCI」のPR強化に努め、より高度な人材を迎え入れるべく努力してきた結果、オープンキャンパスや相談会などで、GCIを希望する生徒の相談は飛躍的に増加したが、出願となると今一步及ばずといった状況
- ③ 高大接続改革対応：次年度より本格的に始まる入試改革に対応すべく、入試制度、並びに入試システム全般を大幅リニューアル中である

#### 2020(令和2)年度計画

- ① 国際化に対応できる人材を優先的に入学させる：2019年度の「GCI」のPR強化に関し、近年の入試改革制度混乱の煽りを受けた受験生が、「学び」よりも「合格」を優先

するようになってきているので、GCI の魅力と共に「入試制度」についても今後継続して詳しく伝えていく

② 2020 年度より本格的に始まる入試改革に対応するため、入試制度並びに入試システム全般の大幅リニューアルを 6 月までに目途をつける

- 中期：① 教育改革と将来構想に沿った長期・中期学生募集戦略
- ② 18 歳人口の減少への対応と戦術施策
  - ③ 定員の確保に向けた具体的な戦術施策
  - ④ 3 つのポリシーに沿う学部・学科ごとの学生募集活動
  - ⑤ 補助金の確保と新たな入試戦略
  - ⑥ 予算規模にあった対応の入試広報活動計画
  - ⑦ 大学院の在り方と将来構想、学生募集活動

## ◎キャリア支援戦略

### 【目指す姿】

- ・低学年次からのキャリア支援～学生一人ひとりが長期的なキャリアプランを描けるようさらに細かくサポート
- ・国際化への対応～海外インターンシップ、海外提携校でのキャリアアップ教育充実
- ・学生のみならず卒業生も「永久サポート」～再就職、転職ニーズ等への支援

### 【足許では】

- ・低学年キャリア教育において、メーカー・商社の卒業生を招聘、業種の間口を広げるとともに、ワークショップによる総合職・営業職への理解促進
- ・卒業 3 年の卒業生・就職先対象にアンケート実施～情報を共有し、タフな中堅管理スタッフとして活躍できる人材育成に活用
- ・海外インターンシップ受講生急増
- ・卒業生支援～転職相談、募集企業とのマッチング、卒業生同士の情報交換 他

### 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ① 国際化に対応したキャリア支援：
  - ・海外でのインターンシップの拡充：ブルネイ、インドネシア、ロンドン、カナダの研修プログラムの募集を行い全てのコースで定員を満した結果昨年より多くの学生が海外インターンシップの機会を得た
  - ・海外提携校でのキャリアアップ教育の充実：ハワイ大学との提携により、現地でのインターンシップに語学教育を加え、キャリアアップ教育を実施
- ② ストレス耐性を持った人材育成とキャリア支援：
  - ・ストレス耐性のあるタフな中堅管理スタッフとして活躍できる人材の育成；卒業 3 年の卒業生ならびにその就職先対象にアンケートを実施し、そこで得られた情報をキャリア委員会ならびにキャリア戦略会議で共有
- ③ 永久サポート大学を活用したキャリア支援：
  - ・再就職支援：大学のホームページに卒業生求職登録フォームをダウンロード可とし、卒業生の求職登録、就職相談を充実
  - ・「転職支援」転職相談、募集企業とのマッチング：卒業生支援プログラム「The B's Way」にて外部の人材会社との交流を年 3 回のペースで実施し、実際に卒業生

同士の情報交換から転職に結びついたり、転職相談に結びつくケースも出てきており、またキャリアセンタースタッフが卒業生相談や障害をもった卒業生の対応も行っている

・新卒応援ハローワーク、文京区等の公共機関や民間人材企業との連携による求人情報の共有や就職支援のできる体制の構築を図る：大学の求人以外に、ハローワーク、東京商工会議所本郷法人会、人材派遣会社等と連携を図り在学生はもとより卒業生にもサービスを提供し、また学生個人にあった求人紹介によりマッチングをサポート

④ キャリア教育力の向上：

・女性のキャリア支援：低学年のキャリア教育にてゲストスピーカーなどを交えて女性の社会進出について学ぶ機会を設定し、様々なキャリアパターンを提示し、女性とキャリアについて早期に意識させた

⑤ キャリア支援活動の充実：

・本来の意味でのキャリア支援活動の充実：低学年のキャリア教育において、今年度より B2B のメーカー、商社などサービス系以外の卒業生も招聘し、就職の促進を図っており、様々な職種、特に総合職・営業職への理解を促進するために、10月に「トモキャリ」・「総合職研究会」（旧「営業研究会」）を様々な職種のビジネスパーソンを招聘しワーク形式で実施し、12月には業界研究会も実施、さらにゼミ担当教員などと連携し個別対応を進めている

・就活実績の質の向上：業界研究の充実と学生に親しみやすい手法を用いた筆記試験対策講座の充実を図り、2月には SPI 未体験の学生対象に「直前編」も開講

2020（令和2）年度計画

① 国際化に対応したキャリア支援：

・海外でのインターンシップの拡充：教員組織であるインターンシップ委員会にて協議しつつ委員会組織のコンセンサスを図り、その上で従来のインターンシップ先の研修内容を課題協働型、事業参加型に転換できるかどうかを検討し、転換可能なインターンシップ先があれば協議を行っていく

② ストレス耐性を持った人材育成とキャリア支援：

・ストレス耐性のあるタフな中堅管理スタッフとして活躍できる人材の育成：引き続き同様のアンケートを実施し、結果を分析して、次なる就職支援策の構築に役立てる

③ 永久サポート大学を活用したキャリア支援：

・再就職支援：卒業生が、より利用しやすいように大学 HP を改修  
・「転職支援」転職相談、募集企業とのマッチング：キャリア委員会ならびにキャリア戦略会議で本プログラムの成果等を検証し、更なる拡充を図っていく  
・新卒応援ハローワーク、文京区等の公共機関や民間人材企業との連携による求人情報の共有や就職支援のできる体制の構築を図る：企業が大学を指定して求人票やインターンシップを配信できるサービス「キャリアタスUC」を導入し、学生に向けてより迅速に求人情報を提供できるようにするとともに、4月ガイダンス時にキャリアセンターのほかハローワークや人材会社による求人紹介など、幅広い支援を学生に提示し、学生個人に見合った支援の充実を図っていく

④ キャリア教育力の向上：

・女性のキャリア支援：キャリア委員会ならびにキャリア戦略会議で本プログラム

の成果等を検証し、更なる拡充を図っていく

- ⑤ キャリア支援活動の充実：
- ・本来の意味でのキャリア支援活動の充実：前年の諸取り組みを検証しつつ、更なる拡充を図り、学生の個別面談についてはキャリアセンター全体で計画的に遂行する体制を確立
  - ・就活実績の質の向上：公務員志向の学生のために「公務員試験対策講座」を開講、公務員以外にも教養試験を課す上位企業を目指す学生を支援する

中期：① 就職支援、転職支援

- ② 海外でのインターンシップの更なる拡充
- ③ キャリア支援活動の充実、就職実績の向上、きめ細かいキャリア支援
- ④ 女性の社会進出・活動・キャリア開発
- ⑤ 同窓会や生涯学習センターと連携を図りリカレント教育の充実
- ⑥ 「育児支援」託児、育児終了後の再学習、再就職斡旋
- ⑦ ハローワーク、文京区等の公共機関や民間人材企業との連携による情報の共有や就職支援体制の構築
- ⑧ 卒業後3年経過後の卒業生アンケートの回収率の向上
- ⑨ 卒業生相談記録により面談内容、内定に至る過程などを検証
- ⑩ 海外提携校でのキャリアアップ教育の充実
- ⑪ ストレス耐性のあるタフな中堅管理スタッフとして活躍できる人材の育成
- ⑫ 就職した卒業生から定期的なアンケートによる失敗経験の収集と周知。また、離職率や各職場での立ち位置（管理職、中堅社員等）の情報と、在学時の失敗素養との関連性を統計的に分析できる体制の確立（IR）
- ⑬ 3年程度で簡単に退職しないストレス耐性をつけた教育をしてきたことを、企業・施設等に説明し、採用実績を積み重ね信用を得ていく
- ⑭ 「商品開発支援」研究テーマと実績の開示を行い、実業企業との共同研究を増やす
- ⑮ 卒業生同士のビジネスマッチング
- ⑯ 「金融紹介」ベンチャー支援のための金融機関とのマッチング
- ⑰ 「創業支援」ベンチャー支援のためのインフラレンタル

## ◎地域連携戦略

### 【目指す姿】

本学の地域連携活動は、地域活性化事業と社会貢献活動の2種類があり、大学の研究・教育の一環として行われている。特に地域活性化の具体的活動がグローバルな展開につながるという実例があり、地域連携からの国際化という本学の考え方を実現。これらの事業をさらに発展させ、必要に応じて新しい事業を起こし、B's ビジョン 2024 の実現に貢献していく

### 【足許では】

- ・地域活性：桐生、岩槻、川越各地区の地場産業との協働
- ・社会貢献：外国人向け防災マップ作成、障がい者向け合理的配慮リーフレット「WITH」作成、「川越唐棧」商品開発プロジェクト、「産後うつ」対応マニュアル作成「エスカレーター安全利用啓発プロジェクト」参画

## 単年度：2019（令和元）年度実施事項

- ①桐生プロジェクト：群馬県繊維工業試験場、後藤織物及び本学で AI を用いた帯デザインから絵柄分類によるアーカイブ化し、伝統技能の保全と新たな販売促進を目指した共同研究事業を実施、この事業に対して群馬県への補助金申請が採択され活動に入る
- ②岩槻プロジェクト：伝統工芸技能の動画が3月末に完成し、経産省、埼玉県、さいたま市に配布。今年度は、その第2弾の制作を目指し、経産省への補助金事業申請を行ない、採択され、8月より伝統工芸技能伝承動画制作活動に入る
- ③川越プロジェクト：WAY FINDING プロジェクトの成果報告の発表をビックサイトの「東京インターナショナルギフトショー」(2/12～2/15)にブース出展した。そこで JR 東日本、ゼンリン等から新商品開発の依頼を受け、現在進行中である。また7月より UAL から講師が来校し、Wayfinding プログラムの成果検証を学生とともにこなす
- ④ロンドンデザインフェスティバル：7/23より Wayfinding2019を実施し、成果検証作業を行い、川越市、川越商工会議所、川越商工会、中町商店会の方々を招いて検証報告会を開催
- ⑤外国人向け防災マップ制作プロジェクト：文京区の避難場所の変更・追加によりリニューアルと全国バージョン制作を検討中。また美術関係の教育用テキストに掲載する方向で進行中
- ⑥障がい者向け合理的配慮リーフレット「WITH」制作プロジェクト：障害者雇用の促進により、新たな課題等をリサーチし内容によっては改訂版の制作を検討。また配布活動は、来年度も継続
- ⑦「産後うつ対応マニュアル」の制作：今年度新たに東大病院、慈恵会医科大学病院、徳島大学医学部附属病院等の団体及び個人からの配布要請が継続し、8,000部増し刷りを行い、また新潟テレビにおいては動画バージョンが放映された。今後も全国に幅広く対応していく
- ⑧（新規教育プログラム）「『川越唐棧』商品開発プロジェクト」を開始：川越プログラム及びWAY FINDING プロジェクトの成果報告と川越唐棧新商品の発表をビックサイトの「東京インターナショナルギフトショー」(2/12～2/15)に行政の推薦と商工会議所の要請を受け、ブース出展が実現する。また企業との商談を今後遂行していく。現在、地図情報会社の㈱ゼンリンとの商品開発を行なうことで合意し、本学、ゼンリン、呉服笠間との3社間協定を締結
- ⑨（最新プログラム）「エスカレーター安全利用啓発プロジェクト」を開始：現在、森ビル六本木ヒルズからオファーを頂き、エスカレーターのハンドレール・ステップ・ライザーのデザインが完成し7/12にラッピング設置している。また同様にNHKからの依頼で「Nスポ」イベントの一環として渋谷ヒカリエのエスカレーターに同様デザインをラッピング設置し、7/20から稼動した。なお、この2施設における活動はNHKニュースにて報道される予定。また都営地下鉄中野坂上駅より設置要望を受け、現在デザインを制作中

## 2020（令和2）年度計画

- ①桐生プロジェクト：プログラム内容を再構築し、新たな提案を策定
- ②岩槻プロジェクト：制作記者発表を岩槻人形博物館にて実施予定、派生商品の開発も視野に入れ活動を継続
- ③川越プロジェクト：川越市を訪れる外国人観光客が確実にストレスなく目的地にたどり着くための”Way Finder”（標識や観光案内）の設置を目指す

- ④ ロンドンデザインフェスティバル：検討中
- ⑤ 外国人向け防災マップ制作プロジェクト：美術関係の教育用テキストに掲載する方向で進行予定、また文科省内にて成果報告ブースを設置、さらに阪神・淡路大震災記念人と防災未来センターより展示依頼があり、その準備体制に入る
- ⑥ 障がい者向け合理的配慮リーフレット「WITH」制作プロジェクト：配布活動の継続し、文科省内にて成果報告ブースを設置し、日本銀行をはじめ各企業から利用依頼があったので今後更なる PR 活動を実施
- ⑦ 「産後うつ対応マニュアル」の制作：今後も全国に幅広く対応していくとともに文科省内にて成果報告ブースを設置し、行政とタイアップ版を制作し、共同活動を目指していく
- ⑧ (新規教育プログラム) 「『川越唐棧』商品開発プロジェクト」を開始：本格的な新商品開発に向け、川越唐棧振興会と連携教育協定締結し、ロンドン芸大プログラムとのジョイントも目指す
- ⑨ (最新プログラム) 「エスカレーター安全利用啓発プロジェクト」を開始：実証実験統計結果を分析し、各メディアにリリースするとともに、更なる実証実験場所の開拓を進める

中期：①文京学院大学×ロンドン芸術大学

- ・桐生プロジェクト(研究・教育、地域産業活性化事業)
  - ・岩槻プロジェクト(研究・教育、地域産業活性化事業)
  - ・★(新規教育プログラム)川越プロジェクト(人間学部プログラム)
  - ・★(新規)ロンドンデザインフェスティバルへの ブース参加
- ②社会貢献活動事業
- ・外国人向け防災マップ制作プロジェクト (地域連携・社会貢献事業)
  - ・障がい者向け合理的配慮 リーフレット「WITH」制作プロジェクト (地域連携・社会貢献事業)
  - ・「産後うつ対応 マニュアル」の制作 (地域連携・社会貢献事業)
  - ・「『川越唐棧』商品開発プロジェクト」(地域創生・社会貢献事業)
  - ・「エスカレーター安全利用啓発プロジェクト」(地域創生・社会貢献事業)

## 大学経営目標

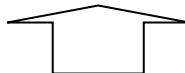
### 創立100周年を越えて持続的に発展していく大学

1. 自ら考え、行動し、社会貢献できる学生の輩出
2. 世界に通用する独自の教育カリキュラムの提供
3. 安定した財務基盤・社会基盤の確立
4. 教育効果の「見える化」とそれに基づく組織作り
5. 時代に即応し、自らプロデュースできる職員の育成及び教員の力量の向上



### ◎目標を支える四つの視点

- 【学生】 学生を始めとしたステークホルダー(保護者・卒業生・就職先・社会)の満足度を常に意識(一人でも多くの「文京ファン」を増やす)
- 【内部】 教育効果を維持しつつ、内部組織・プロセスの効率化・スリム化推進
- 【財務】 学園財務基盤維持のための貢献と工夫
- 【成長】 職員レベルに応じた研修制度の新設検討  
教員の力量の向上～研究への継続的取組みと教育における新たなフィードバック手法の開発・推進～



### ◎四つの視点を支えるメルクマール(例)

視点	項目	数値目標等
学生	学生満足度	部活動参加者数、図書館利用回数
	その他満足度	保護者向け説明会満足度
	就職内定率	上場先、グローバル企業、営業職
	ブランディング	各種調査ポイント数 HP アクセス件数、メディア掲載件数
内部	組織	職種別社員数、経費節減委員会計数
	プロセス	稟議件数
財務	入学定員充足率	専願者数、Web 出願率、高校訪問件数
	退学率、科研費	
成長	研修実施回数	管理職/候補者向け(労務・評価制度他)
	教育手法	アクティブラーニング授業回数



(目標項目例詳細)

視点	項目	
学生	学生満足度	学生アンケート「総合満足度」向上
		部活動・各種委員会参加者数
		学生一人当たり図書館利用回数
		課外派遣留学生数
		初年次教育科目修得率
	その他満足度	保護者向け説明会アンケート満足率
		卒業生等子弟入学者数
	就職内定率	上場及び関連先内定者率
		グローバル企業内定者数
		営業職内定率(営業研究会参加者)
		新規企業訪問件数
	ブランディング	各種調査ポイント(例:面倒見のよい大学)
		本学 HP アクセス件数・メディア掲載件数
		国家試験合格率
内部	組織	職種別人員数
		時間外削減率
		コース・課程:学生ニーズに則しているか
	プロセス	稟議件数削減率
財務	入学定員充足率	専願者数
		Web 出願率
		高校訪問件数
		高校ガイダンス参加件数
		高校バス見学会件数・人数
		オープンキャンパス参加人数
	科研費採択率	
	退学率	
	補助金獲得額	
	CO2 排出削減率・電気使用量削減率	
成長	研修実施回数	管理職/候補者向け研修(労務・評価制度他)
	教育手法	アクティブラーニング授業回数

## 1) 研究に関する事項

教員の研究活動は総合研究所が主体となって科研費・共同研究助成費につきこれを支援しています。これらの概要は以下の通りです。

### (1) 科研費の獲得状況と2020（令和2）年度目標

2019（令和元）年度の科研費採択状況は、本学の教員が研究代表者として採択されている人数は、継続者24名、新規10名の合計34名でした。学部別にみると、保健医療技術学部が18名、人間学部が8名、外国語学部が6名、経営学部が2名です。交付総額は、研究者が使用できる直接経費が23,586,715円、法人が使用できる間接経費が、7,020,000円でした。また、他大学の研究者が研究代表者であり、本学の教員が研究分担者となる研究分担者については、延べ27名が研究分担者となっており、直接経費の総額は4,928,000円、間接経費が1,388,400円でした。

「共同研究の推進に関する留意事項（平成22（2010）年度総合研究所長発信）」に基づき、学内の共同研究助成費が採択された場合は、原則として国の科研費への応募が義務付けられているほか、全学的に大学運営会議等を通じて、積極的に科研費への応募を促すことによって、研究代表者として採択される件数を増やしていく努力をした結果、採択件数及び交付総額を増やすことができつつあります。2020（令和2）年度についても採択件数及び交付総額の拡大を目指していく目標をたてています。

### (2) 共同研究助成費の採択状況

2020（令和2）年度の共同研究助成費は、採択件数が、外国語学部5件、経営学部3件、人間学部2件、保健医療技術学部11件の計21件で、総助成費総額は、1,423万円の見込みです。

外国語学部	在留外国人との共生：在留ネパール人を事例として
	子どもアドボカシーと持続可能な開発目標達成(SDGs)に向けた取り組み
	ウルグアイにおける文化的映像力のグローバル的価値とその意義(現地調査)
	大学生を対象とした内容言語統合型学習(CLIL)における語彙学習：Graphic Organizer の活用における教育的効果の検証
	本学キャリア教育の改善における実証研究-意識改革を中心に-
経営学部	大学の教育、経営、組織に関する多面的研究
	日系企業の海外マネジメントとマーケティング(継続)
	桐生織物「後藤」下絵コレクションの資料分析
人間学部	高齢者福祉施設における Information and Communication Technology (ICT) ・介護ロボットの活用と専門職の役割～海外との比較を通しての検討～
	福祉サービス提供組織における Off-JT の実践
保健医療技術学部	分子生物的手法を用いた淋菌の多様性に関する網羅的探索
	筋ポンプと呼吸ポンプの相乗効果
	高齢者のセルフケアとしての歯磨き状況と口腔内細菌の分布
	地域在宅高齢者の注意機能と歩行時注視活動の検討
	足白癬菌の環境的特性および感染力残存と耐性獲得の可能性に関する調査研究

保健医療技術学部	大腸炎モデル動物における収縮反応に対するカルシウムの影響
	女性のリハビリテーション専門職における組織風土が人材育成に与える影響
	尿路結石症再発スクリーニング濁度法への Tamm-Horsfall Protein の関与②
	遺伝子発想プロファイルに多変量解析を応用した腫瘍診断システムの構築
	血管内過凝固状態における血球細胞動態の解明および検査法の開発
	薬剤アレルギー検査における T 細胞活性化機序の解明および改良法の開発

### (3) 学長裁量経費の成果と 2019（令和元）年度予算とテーマ

上記以外にも、平成27年度から、学長が学内の教育改革に取り組む教員または組織(学部等)を財政的に支援することを目的として、「学長裁量経費」制度を創設し、教育改革に特化された取り組み計画に対して、学長裁量経費予算として一会計年度当たり200万円を計上して、新たに支援を開始しました。2019（令和元）年度のテーマは、「ストレス耐性のある人材育成」または「永久サポート大学」あるいは両方、「アクティブ・ラーニングによる教育改革」、新規テーマ「アカデミック・ライティング教育\*」です。学長裁量経費選考委員会の選考結果は次の通りでした。

\*説得力のある文章を書くための文章指導

#### テーマ「アクティブラーニングによる教育改革」

- ① 「食糧危機解決に向けての提案」「食品ロスの削減に向けての提案」  
(共通の副題:学生と外部組織との連携による問題解決)  
申請者 外国語学部 渡部吉昭  
採択金額 130,000円
- ② 「Learning Assistants の育成」  
申請者 代表者 経営学部 絹川直良  
経営学部 池田芳彦、草野千秋、小松香爾、  
新谷真由、藤田邦彦、馬渡一浩  
採択金額 150,000円
- ③ 「まちラボ」を拠点としたエンゲージドラーニング・プログラムの開発と検証」  
申請者 代表者 人間学部 木村浩則  
人間学部 中山智晴、古市太郎、文野洋  
採択金額 250,000円
- ④ 「保育者の資質としての表現力を支える状況判断力・技能の育成(2)」  
申請者 代表者 人間学部 渡辺行野  
人間学部 椛島香代、森下葉子、木村学  
菖蒲澤侑  
採択金額 170,000円

#### テーマ「アクティブ・ラーニングによる教育改革」および「ストレス耐性のある人材育成」

- ① 「アクティブ・ラーニングに基づく多文化共生に係わる教材の開発」  
申請者 代表者 人間学部 小林宏美  
外国語学部 甲斐田きよみ  
椿まゆみ  
採択金額 450,000円

#### テーマ「永久サポート大学」

- ① 「ゼミナール協議会の再建とゼミナール主義の再構築に向けて」  
申請者 代表者 経営学部 高橋円香  
経営学部 新田都志子、馬渡一浩、小松香爾  
草野千秋

- 採択金額 100,000円
- ② 「卒後教育の一環としての対人援助職現任研修の開発」  
 申請者 代表者 人間学部 鳥羽美香  
 人間学部 人間福祉学科全員
- 採択金額 250,000円
- ③ 「施設経営・マネジメント研修の検討ー卒業生と現役学生の協働による現任研修プログラム開発」  
 申請者 代表者 人間学部 鳥羽美香  
 人間学部 梶原隆之、田嶋英行、武田和久  
 青木通
- 採択金額 150,000円

新テーマ「アカデミック・ライティング教育」

- ① 「外国語学研究所の英語アカデミック・ライティング教育の再構成」  
 申請者 代表者 外国語学部 桑子順子  
 経営学部 Robert Van Benthuyzen  
 外国語学部 Wendy Gough  
 フェアバンクス香織
- 採択金額 350,000円

2020（令和2）年度は、昨年度と同様に一会計年度当たり200万円の予算を計上するとともに、年度初めに、取り組むべき教育改革テーマを学長が発表しました。

この予算は、学内における公募による自由競争によって配分します。

【2020（令和2）年度 テーマ】

継続テーマ 「ストレス耐性のある人材育成」または「永久サポート大学」あるいは両方  
 「アクティブ・ラーニング による教育改革」  
 「アカデミック・ライティング教育」

2) 教育改革に関する事項

◎本学の様々な教育改革のための取り組みの大きな特徴はいずれも学部の特長領域から一歩踏み出したプロジェクトであることです。以下、その主なものを紹介します。

(1) ロンドン芸術大学（以下；UAL）とのコラボレーション

～外国語学部、経営学部、人間学部学生が各々の視点で参加～

令和元年も7月から8月にかけて、本学とUALで「Kawagoe Wayfinding Project」を実施しました。本プログラムは、小江戸川越と呼ばれる川越を舞台に、未知の土地をストレスなく、楽しみながら体験するための工夫を指す“Wayfinding”を創作していくものです。本年オリンピックイヤーでの更なるインバウンド増加を見据え、より多くの外国人観光客に対して川越の魅力を発信すべく、人間科学と融合しながら新たな KAWAGOE 散策の提案を行い、世界に「KAWAGOE」の名を広めることを最終目的とした実践型教育プロジェクトです。

今回はUALより招請した Charles Abott 先生のスーパーヴィジョンの元、これまでにプロジェクトで製作された作品群の中で Booklet(川越ガイドブック)の使用効果検証を行いました。まずは効果促進のためのルートマップを作成、その効果検証を生理心理学的に行ったものです。結果については、川越商工会議所の皆様等へ成果発表会の形で報告しました。

## (2) GCI

～外国語学部を中心に全学部の教育に導入されている横断型グローバル人材育成プログラムとして更なる発展へ～

平成25年度から始まった全学部横断型グローバル人材育成プログラムであるGCI (Bunkyo Global Career Institute) が平成28年度に完成年度を迎えて、第1期の卒業生を世に送り出しました。GCIはアイデンティティをもって発信し合うためのグローバル英語、ユーラシア地域を中心に多極化するグローバル社会を体感するための異文化間理解・共通科目群、ビジネス現場で即戦力を身に着けるための学部発展科目群、グローバル社会を体感する多彩な留学・研修、グローバルビジネス現場での活躍を視野に入れ、遠隔地双方向授業も取り入れた学生・教員・職員が一体となって学生自身のキャリアアップをはかるキャリア科目群、グローバル専門力を向上させる専門知識と専門英語を学ぶ学部発展科目、国内だけでなく、海外のインターンシップも含めた実践的なカリキュラムで、語学力や異文化理解を発展的に生かせる力を身に着けさせる実践的キャリア開発など、他の大学にない斬新なプログラムです。

完成年度を節目として更なる発展を目指し、PDCAサイクルでこれまでの実践と成果を分析評価し、グローバル英語プログラムを更に充実していくとともに前述 UAL へのフィールドワーク等を通じて学ぶ ESP プログラムの展開等、より完成度の高い充実した教育プログラムとして発展させていきます。今年度も過去最大規模の学生が参加したマレーシアの大手国立大学であるマラ工科大学でのマレーシアコースを始めとする多くのプログラムが実施されました。

### 主な交流・提携大学（含む GSI）

ヴェリコ・タルノヴォ大学	ブルガリア
アンカラ大学	トルコ
スインバン工科大学	オーストラリア
オタゴ大学	ニュージーランド
北京語言大学	中国
北京理工大学	中国
國立高雄餐旅大学	台湾
光云大学	韓国
タマサート大学	タイ
マラ工科大学	マレーシア
マレーシア国民大学	マレーシア
カンタベリークライストチャーチ大学	イギリス
ロンドン芸術大学	イギリス
トンプソンリバーズ大学	カナダ
ブロック大学	カナダ
セント・ベネディクト大学／セント・ジョンズ大学	米国
カブリヨ大学	米国
ウズベキスタン国立世界言語大学	ウズベキスタン
アル・ファラビ カザフ国立大学	カザフスタン
マルタ大学	マルタ

### (3) 人間学部コミュニケーション社会学科・人間福祉学科

#### ～福祉マネジメントコース導入；福祉イズムをビジネス領域で活かす企業人の育成～

人間学部コミュニケーション社会学科については、平成29年度入学生より、1・2年次はふじみ野、3・4年次からは本郷で基本的に授業を行うカリキュラムとなっています。具体的には、平成29年度入学生が3年次になった平成31年4月から本郷で学びを開始しました。本郷キャンパスでの学びの拠点は「まちづくり研究センター（本郷）」（まちラボ（本郷））となります。「まちラボ」とは老若男女さまざまな人が集える空間で、そこで地域社会の問題を共有し、解決のための糸口を探し、行動をもって対処していく活動拠点を意味するものです。

また、人間学部人間福祉学科については、福祉専門職を養成するソーシャルワークコースと福祉の知識・スキルと経営の知識を合わせ、ビジネス領域で活かせる企業人の育成を行う福祉マネジメントコースの2コース制を導入しました。福祉マネジメントコース履修者については、平成30年度入学生より、1・2年次はふじみ野、3・4年次は本郷で基本的に授業を行うことになっており、具体的には3年次になる令和2年4月から本郷での学びを開始しました。

### (4) その他学生による実践教育プロジェクト

本学では、各学部の特徴を生かし、産官学連携も含めた様々な実践的学びのプロジェクトを展開しています。これらの取り組みは多くのマスメディアにも取り上げられ、ブランディング力向上にも寄与しています。以下、いくつかの取り組みをご紹介します。

#### ① エスカレーター的安全利用啓発プロジェクト「消費者の行動をデザインの力で変える」デザインの導入と効果検証

学生が歩行者の行動を都内各駅にて調査し、また SNS を活用してアンケート調査実施。その結果、消費者行動の観点からエスカレーターのステップやすりにおける「人の行動を変えるデザイン～思わずつかまりたくなる ぎゅっ/思わず乗りたいくなる足型」の考案・設置や、SNS を活用した意識調査を進めてきました。その結果、令和元年度は、都内の六本木ヒルズ、都営地下鉄大江戸線駅内エスカレーター、渋谷ヒカリエ等で考案したデザインが採用されました、

#### ② 「ラグビーのまち釜石」応援プロジェクト

本学コンテンツ多言語知財化センターにおける東日本大震災復興支援プロジェクト「プレーメンズ」の学生たちは平成29年以来、釜石市根浜地区の方々と「ラグビーのまち釜石」を応援する「ねば～だるま(注：起き上がり小法師)プロジェクト」を行ってきました。

令和元年は9月に釜石で開催されたラグビーワールドカップ フィジー対ウルグアイ戦に合わせて、両国大使館のデザインご協力のもとで、「ねば～だるま型うちわ」を5,000枚作成して会場付近で無料配布した他、釜石市長を表敬訪問、プロジェクトの活動報告をおこなったものです。

なお釜石市と本学とは、令和2年2月に地域社会の発展・人材育成及び学術の振興に寄与することを目的とした包括連携協定締結致しました。

#### ③ 「新・文明の旅+」ラトビア・リトアニア訪問

2024(令和6)年に100周年を迎える本学が、2010(平成28)年より、学生たちが3年に1度ユーラシア大陸の国々を訪問し、現地の大学生との交流を深めて

いこうというのが、本学主要プログラムの一つである「新・文明の旅」です。

2019（令和元）年には「新・文明の旅+（プラス）」と題し、9月に第2回で訪れたラトビア・リトアニアを10名の学生が再訪しました。主題は「バルチックデザインをめぐる旅」であり、アールヌーボー様式等日本ではあまり見かけない建築様式等を学んだ他、両国学生との交流を深めたものです。

### 3) ICT教育等学習支援態勢の充実に関する事項

まず、従前の流れをご説明します。

ICT環境については、本郷キャンパスでは2019（令和元）年度に実施した授業用貸出ノートPCの整備と無線LAN環境の拡充（Wi-Fi6対応）により、学生のスマートフォンやタブレット利用を含めた安全で利用し易いグループワーク環境の運用を進めてまいります。また、新たに人間学部福祉学科の学生も加わることから、ICT環境が円滑に利用できるためのサポートにも注力してたところ です。

またふじみ野キャンパスでは2019（令和元）年度に情報教育設備の授業用パソコン300台を更新し、継続して使用する126台とあわせて426台すべてを最新OS/ソフトウェア環境に統一いたしました。授業支援システムとしてMicrosoft™ Teams™ を標準インストールし、情報教育演習室と学生・教職員の持つ個人情報機器の活用（BYOD）を絡めたコラボレーション環境を実現、ワークスペースをPC教室から拡大することで、大学の教育全般でのICT利活用推進に寄与いたします。また、学生の学業への取り組み姿勢のより正確な把握のため、出席管理システムを本格稼働し教学システムB's LINKとの連携や、今後の教学マネジメントシステム構築へと進めてまいります。また通信インフラとしては5G世代を見据えた通信インフラの充実に取り組んでいたところ です。

そして新型コロナウイルスへの対応は、これらICT教育の取り組みを一層加速化させています。前述のとおり、リモートによる授業を前提とした各種学生サポート、(授業実施、在宅勤務両面での)教職員の準備、加えて学内各ネットワークシステムの更なる強化他、緊急予算を計上して迅速かつ柔軟に対応してまいります。

続いて図書館の状況です。本郷図書館では、2019（令和元）年度に集密書架も含めた資料の再配架を実施して書架環境の整備を行いました。同時に貸出用ノートパソコンの台数を増やし利用の増加に対応しています。今年度からは本郷キャンパスにて、人間学部の福祉マネジメントコースの授業が始まります。引き続き、学習環境の向上に努めるとともに、新たな分野の資料収集や学習の支援にも取り組んでまいります。

一方、ふじみ野キャンパスにおいては中期計画にもとづき他大学や公共の先進図書館の事例を研究し、個人用ブースやグループ向けブース、長時間滞在対応設備など、より滞在しやすい環境、利用しやすい設備の充実に図り、また利用者サービスとしても貸出・レファレンスカウンターに加え学習サポートコーナーと館内ラーニング commons のコンシェルジュ、情報教育研究センターのサポート窓口の機能の融合・高機能化をはかり、機能性・利便性ともに向上させるべく整備を続けてまいりたいと考えます。

### 4) 学生募集に関する事項

大学では、2020（令和2）年度入学定員に対する入学者数は、全体では1,270人となりました。学部別では、外国語学部、経営学部、保健医療技術学部、人間学部の全学部にて定員確保、学科別でも、人間学部児童発達学科を除き、全ての学科にて定員を充足いたしました。総志願者数では11,000人超と過去最大、定員比9倍超となっています。

	入学定員(a)	入学者数(b)	手続者数/入学定員(b÷a)
外国語学部	260人	267人	102.7%
経営学部	260人	265人	101.9%
人間学部	400人	417人	104.3%
保健医療技術学部	300人	321人	107.0%
4学部計	1,220人	1,270人	104.1%

経営学部は、学科名を平成28年度から経営学科から経営コミュニケーション学科に変え、ビジュアル・シンキングの手法、特にそのインフォグラフィックを学ぶという本学独自の教育プログラムをスタートしました。その活動が「WITH～障害のある人への合理的配慮を推進する企業向け職場用実践リーフレット」といった形で結実、多くのマスコミで取り上げられる等広報効果があり、昨年度に続き多数の志願者を集めました。これらの活動をさらに推し進め浸透させていくと共に、「かみしもどーる」「川越唐棧」「ねば～だるま」といった具体的な成果に繋がっている産官学連携型実践プロジェクトを導入していくこと等を評価頂き、引き続き定員を大きく上回る志願者となりました。

外国語学部は、グローバル化の影響を受け、学部・学科を問わずグローバル教育が受けられるようになり、差別化が最も難しい学部です。その中で、本学では全学的な取り組みであるGCIが平成28年度に完成年度を迎えて第1期の卒業生を送り出しました。その教育プログラムの一環であるロンドン芸術大学とのコラボレーション実現等もあり、定員を大きく上回る志願者となっています。引続きグローバル英語プログラム推進等による安定した志願者の確保を目指します。

保健医療技術学部は、本学の伝統、教育、設備などを従来より高く評価頂いており、全学科にて入学定員を確保致しております。直近でも全国平均を上回る国家試験合格率や本学独自の教育プログラムを今後とも確実に伝えていきます。前述のとおり本学卒業生は新型コロナウイルス蔓延の影響を余儀なくされる職場環境にて懸命に各々の業務にあたり、大いに力を発揮しています。

人間学部は、この数年4学科それぞれが教育改革を進めてきており、その成果が現れてきています。今後は各学科が特色を生かしつつも、教育プログラム他で連携を更に深め、学部全体での協働効果による魅力を積極的に発信していきます

コミュニケーション社会学科については、より学びのフィールドを拓けるべく、平成29年度入学生から3・4年次には本郷キャンパスで学習、「まちラボ」を拠点とした地域社会との連携、課題解決に携わる等進行中の改革をご説明した結果、今年度も昨年以上に定員を大きく上回る志願者を集めました。

人間福祉学科においては、景気回復に伴う一般企業における就職採用状況の改善と国内における福祉関係への就職イメージの悪化もあり、全般的に若者からの人気下落しており、依然として厳しい募集環境が続いています。そのような中で、前述通り、平成30年度より福祉専門職を養成するソーシャルワークコースと、福祉の知識・スキルと経営の知識を合わせ、ビジネス領域で活かせる企業人の育成を行う福祉マネジメントコースの2コース制を導入しました。福祉マネジメントコース履修者については、平成30年度入学生より、1・2年次はふじみ野、3・4年次は本郷で基本的に授業を行うこととなり、いよいよ本年度が本郷キャンパスで学ぶスタートとなります。福祉ビジネスを手掛ける一般事業法人へのイン



ターンシップ等も予定しており、新たな教育面の取り組みを伝えてまいります。このような取り組みが評価され、本年度は入学定員を充足したところです。

児童発達学科は、昨年度に続き定員未充足となりました。人間福祉学科と同様に一般企業における採用状況改善の中で、拘束時間も含めた待遇面の問題等で教育系学部全般の募集環境(なかでも新型コロナウイルス蔓延に影響された幼保教育)は厳しく、当面その傾向に大きな変化は考えにくい状況です。保育施設不足が従来以上にクローズアップされる環境下、以前より併設にふじみ野幼稚園、更には開かれた保育実習施設「ふらっと文京」を備えていることに加え、高大接続の流れの中での入学前教育の拡大等、地域に密着した教育方針を説明、ご理解を頂けるよう努めてまいります。他方、指定校・推薦入試の基準見直し等も検討の余地有と考えています。

心理学科は昨年・一昨年を大きく上回る志願者を集め、引き続き安定して定員を確保致しました。平成29年度から一斉に導入された「公認心理師」養成への対応に関して、本学では、従来より公認心理師資格取得に必要な幅広い各専門分野のカリキュラムを提供しており、大きな授業内容の変更を伴うことなく、完全対応が出来る態勢となっていたことを評価頂いたと考えております。公認心理師は保健医療、福祉、教育、その他の分野において、心理に関する支援を必要とする人の相談に応じたり、心理状態を観察・分析したり、相談者への助言や指導、その他サポートを行うと定義されており、心理の専門職として幅広い分野における活躍が期待されています。

## <大学院>

### ◇2020(令和2)単年度計画及び2024(令和6)年度中期計画

(外国語学研究科)

#### (単年度)

外国語学研究科は英語コミュニケーション専攻を設置し、「国際協力」「国際ビジネスコミュニケーション」「英米文化理解」「英語教育・英語学」の四カテゴリーで構成されています。2020(令和2)年度には四カテゴリーの共通科目である「英語表現研究」A,Bの授業内容を刷新します。すなわち「アカデミック・スキル」と「アカデミック・ラーニング」の二つを科目の内容として構成し英語コミュニケーション専攻の核となるアカデミックな技術の基本を英語で学びます。EAP教育を専門とし国際学会で研究成果を発表している英語ネイティブ教員が担当します。

今後この二つの科目は一層の充実と拡大をはかり文京学院大学大学院の他研究科も履修者を受け入れ可能な、英語での論文作成、研究発表の上級なスキルを学べるようにしていきます。国際学会での発表や論文を投稿できる力を身につけることを通年科目として設置していく予定です。

また中学・高等学校教諭専修免許(英語)の取得のための要件についても明確な記載と正確で広範囲にわたる広報を实践予定です。学部学生への広報は説明会だけでなく一斉メールや、ホームページやパンフレットの改訂、学外での資料配布など行って入学者は前年より増えました。

昨年度多くの受講者を獲得できた生涯学習センターとの連携講座と特別講座を引き続き企画していきます。また外国語学部1年生に向けた教員免許や専修免許の説明を増大し、飛び級制度を活用した入学者も含めた内部進学者の確保のための学年別広報も進めていく予定です。

#### (中期)

外国語学研究科は外国語学部の二つの専攻及び四つのコースの上に組み立てるかたちでの四つのカテゴリーを構成してきましたが、設置以後、小さな改変や科目名の変更を行った以外は

きなカリキュラム改革を実施していません。本研究では、中期ビジョンとして、科目構成の見直しを図ることを第一に掲げます。まず、中学・高等学校教諭専修免許（英語）の取得に関するカリキュラム編成についてです。開設時は既に中学・高等学校に就職している教員に向けてのキャリアアップを可能にするという社会人向けのプラン中心でしたが、現在ではその需要が殆ど見られなくなっています。従って、外国語学部の教員免許取得と教員採用試験を目指す在学生向けに、専修免許早期取得プランを提供します。そのために ITC を使用した教育工学の専門科目を現在、履修者の殆どいない科目からの移設の形式で取り入れていきます。また英語教育の科目内容も充実させる予定です。「国際協力」には<STG s>を取り込むカリキュラム編成、「英語ビジネスコミュニケーション」には経営学部との協力体制を提案して科目の一部相互乗り入れによる英語の強調、「英米文化理解」には<映画・映像>、<翻訳>をキーワードにした編成を取り入れながら、明確な研究目標を設定します。第二のビジョンとしては、四カテゴリーをそれぞれに充実させながら、統合可能な部分を見出し、より先鋭化できる研究科の設営を、2 年目、4 年目という区切りをつけてカリキュラム編成を中心に再構成していきたいと考えています。

#### (経営学研究科)

##### (単年度)

経営学研究科はビジネス・マネジメントコース、コンテンツ・マネジメントコース、税務マネジメントコースの3コース（専攻）で編成されています。募集定員30名に対し平成31年度入学者は23名。在学生の2年生18名と合わせて収容定員の60名に対して在学生41名となっています。

募集への取り組みは入試説明会実施の他、ビジネス・マネジメントコース、コンテンツ・マネジメントコースについては、中国の北京第二外国語大学・吉林動画学院との協定等を通じた意欲ある留学生受入に注力してまいります。さらに、今年度からは北京語言大学からの留学生受入協定の締結も行いました。昨年12月に現地で協定を結ぶとともに説明会および模擬授業を実施。今後優秀な学生の確保が望まれます。

一方、税務マネジメントコースは修了後に安定した就職が見込まれます。在学生、修了生の多くは、大手税理士法人等に勤務しています。また修了後に税理士開業する例も多く、平成28年度8名、29年度7名、30年度は15名、令和元年度は7名が予定しています。また今年度新たに消費税の演習を開講し、5人の院生が学びニーズに合った教育を実施できました。さらに、学部との連携で4年生の内部進学説明会に加え、1年生の保護者会で説明会を初めて開催しました。今後も学部からの内部進学を積極的に進めて参ります。

##### (中期)

まずは安定的な在学生の確保が挙げられます。そのためには、(1) ビジネス・マネジメントのカリキュラムの改定 (2) 募集要項の見直し (3) 社会人に向けた効果的な広報の確立 (4) 学部との連携強化の4つを強化していきます。

(1) のカリキュラム改定については既に着手しており、来年度に策定し、令和3年度より実施いたします。主なポイントとしては、都市型立地である本学の長を活かし、これまでのベーシックな科目に加え現代の社会人が直面している問題を解決するために必要な知識、技術、スキルが身につく内容にモデルチェンジいたします。そのために従来型の授業に加え教員間コラボレーションによる新たな試みなども行います。

(2) については、令和2年度の入試がまだすべて終わっていない中ですが、1期、2期入試を合わせて志願者25名（前年同期比86.2%）、合格者13名（前年同期比70%）となっています。特に税務マネジメントが志願者22名のところ合格者14名で合格率63.6%

となっていますが、原因の一つは受験の際に提出してもらった志願票に第一希望の教員のみを書かせていたことが挙げられます。これを改善することは受験生、大学双方にメリットがあり令和2年度よりすぐに変更いたします。

(3)の広報ですが、現在は学部と同様に入試広報グループのパンフレット等紙媒体が中心ですが、本学大学院の主たるターゲットが社会人であるため、実情に合わせてネットでの情報提供、広報を強化いたします。

(4)の学部との連携強化に関しては令和元年度から行っている1年生保護者への説明会に加え、入学時より会計や税務など資格取得と連携したキャリアの説明、飛び級など早期からの意識向上を目指した説明会を強化していきます。また大学院のカリキュラムを3、4年生の段階から履修できるモデルの構築をいたします。

最後に、中長期にわたった改革として会計を強化した新たな専攻の創設なども視野に入れていきます。

## (人間学研究科)

### (単年度)

人間学研究科は、人間学専攻と心理学専攻の2専攻で編成されています。このうち、人間学専攻には保育学コースと社会福祉学コースがあり、心理学専攻にはこれまで心理学コースと臨床心理学コースがありましたが、臨床心理学コースに一本化して募集することになりました。

保育学コースは外部からの現職教員の入学予定者1名と他大学からの入学予定者1名、在学学生2名の合計4名でスタートします。保育学コースでは、臨床発達心理士の指定科目と臨床実習の全てを授業でカバーできるようになっており、その点を強調した広報を進めていく方針です。

社会福祉学コースでは、学部で社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格を取り、現場で働く人材がほとんどのため、大学院進学を目指す人が少ないのが現状ですが、来年度は現職者の入学予定者1名、留学生2名の入学予定となっています。

心理学コースは2年生が1名在籍していますので、今年度も心理学コースとしての運営は継続して行われます。

臨床心理学コースは、12名が入学予定で、在学学生9名と合わせて21名の予定です。心理学コースは、1名が在籍しております。心理学専攻は、本年2020(令和2)年4月より臨床心理学コースに一本化します。多様な専門を持つ教員が集結し、基礎から応用まで幅広く教育を行うことで、公認心理師資格の取得希望者に加え、研究者志望の院生に対しても盤石のサポート体制を築きます。今年度はコース統合への転換期として、心理学コースの在学学生のための運営と、一本化した臨床心理学コースの運営という二本立てになります。

各コース共通の課題として、学部生からの内部進学を増やすための広報を行います。また社会人からの進学を増やすため、ホームページ、リーフレットの配布、オープンキャンパスでの広報活動を充実させることがあげられます。魅力あるホームページにするよう、広報委員会を設置し、リニューアルを行う予定です。社会人については、第1段階として、科目等履修を活用し、その後、仕事を続けながら大学院進学が可能な仕組みをアピールしたいと考えています。

### (中期)

2専攻、3コースで運営する体制となります。入学者の少ない、保育学コースと社会福祉学コースにおいては、募集方法、コース運営を見直す必要があると考えています。

保育学コースの場合、学部卒業者のほとんどが保育所、幼稚園、小学校などに就職するため、内部進学者は少ないのが現状です。保育・教育の現場に出て3~5年経つと学び直しへの意欲が出てくることから、開講時間を6限以降か、集中講義(土曜日、長期休暇中の開講)とし、科目等履修

から始めて、大学院入学へと誘導できるような仕組みが必要と考えています。

社会福祉学コースも卒業生の学び直しのニーズはあるため、夜間開講や集中講義以外にも受講しやすい対策として、本郷キャンパスでの開講を考えています。2019（令和元）年度科目等履修生が本郷キャンパスで受講した経験もあり、学部の3・4年生の一部は、すでに本郷キャンパスで開講しているので、実現可能な計画であると思われます。

新しく統合化した臨床心理学コースは募集定員が20名となったため、内部進学者を増やすことと、外部進学者へのアピールが重要となります。公認心理師や臨床心理士の受験資格取得に向け、実習を含めた多岐にわたる教育を強化し、特に国家資格である公認心理師の合格率を向上させることが最も重要であると考えます。そのためには、対策講座として開講している、公認心理師特講による指導内容の充実を図ることが考えられます。内部進学者については全学科教員による挙党体制にて、学部から一貫した教育の充実が対策として重要であると考えています。外部進学者に対しては、これまでの心理学コースの教員も臨床心理学コースの教員となるため、より幅広い専門分野の教授陣により基礎から応用まで幅広く研究を行い、研究、実践をともに重視しつつ、公認心理師の養成に向けたサポート体制にあることをポイントとして、広報活動をより充実させる必要があります。

(保健医療科学研究科)

(単年度)

保健医療科学研究科は保健医療科学専攻として健康推進・リハビリテーション分野と検査情報解析分野の2分野で構成されています。

募集定員20名に対して2020（令和2）年度入学者は16名。在学生の2年生14名と合わせると収容定員の40名に対して在学生は30名となっており、前年度より6名減少しましたが、特別研究を指導できる教員が補充できたことで入学者数は前年より若干増加しています。募集への取組みは引き続き保健医療技術学部の進学指導相談会で大学院の説明を行い、一般の進学意向者のHPからのお問合せへの回答を実施してまいります。就職状況についても良好で、病院勤務（理学療法士、作業療法士、臨床検査技師）、福祉施設・高齢者施設に勤務、企業に勤務する研究者、博士課程への進学等の実績があります。

(中期)

本研究科で特別研究を始めるには、国が定める「倫理審査」を通過しなければなりません。今後、本研究科のみならず、個人情報扱い、研究倫理の厳格化は益々厳しいものになってくると考えられます。倫理審査に要する時間を可能な限り短くして、特別研究に費やす時間を確保することは研究科として当然のことです。そのためには、臨床研究支援センターの設置と倫理審査に精通した専門スタッフの雇用・養成を考慮していきます。また、特別研究については指導学生数が0～12名の研究室があり、一部教員への著しい負担がみられます。これは毎年同じ傾向であり、定数に近い学生数を確保するにはやむを得ない状況ですが、①各研究室で指導できる学生数の上限を設定する、②指導教員の研究指導の補助に学部の専任教員が参加できる制度を設定する、③専門性を有する人材の雇用をはかっていく、など検討していくことで、教員間の負担の公平性を目指していきます。FDの成果をもとに、共通コア科目の「Iチーム医療学・医療倫理学特論」および「II災害医療・保健医療学特論」の充実を目指します。

◎なお、以上4研究科に加えて冒頭「はじめに」でご紹介のとおり、2021（令和3年）4月には看護学研究科の設立を予定しております。（申請中）

## <中学校・高等学校>

### ◇2020(令和 2)単年度計画及び 2024(令和 6)年度中期計画

(中学)

(単年度)

3コース制の本格導入から4年目を迎え、30人をベースとする3クラス編成の入学確保に安定的な方向性が見えてきたと考えています。大学新入試制度を目前に控え、探究・思考力の育成を主眼とする本校独自の3コース制が着実に浸透してきた事が大きな要因であると分析しています。大学新入試制度を元年度迎え探究・思考力の育成を主眼とする本校の3コース制度が着実に浸透してきた事が他校との差異化につながったと考えています。今後の課題は、6年間を見据えた3コース制を2020年以降の入試と絡め、さらに告知させていくこととコース制1期生の高校3年次(6年次)への進級に伴い、2021年度入試を見据えた、進学実績を強く意識した探究活動を含む多様化する入試改革に対応できる進路指導に重点を置くことが求められると考えています。また、昨年度に続き、英語既修者を募集活動における広報戦略の一翼において、「小学生英検チャレンジ講座」の実施、英語修学児童(英検2～3級程度)を対象とした「IEE入試」を新機軸に展開しました。「小学生英検チャレンジ講座」においては、昨年度に続き小6受講者実数87名中31名が出願(36%)、内24名(28%)が入学に結びつき、「IEE入試」においては英検3級程度の実力を所持している児童の入学に結びつき新指導要領の「英語」導入により今後も大いに効果が期待できると考えています。理事会にてご承認頂き3年目を迎えた「子女・姉妹入学金減免枠」の拡大施策も本年度13名と効果が見られました。また、公立一貫校併願者をターゲットに昨年より2月1日実施を打って出た「コース別新思考力入試」では出願者そのもの数は多くはありませんでしたが、国公立の中高一貫校を併願する極めて優秀な生徒の入学誘因につながりました。しかし、本校の入試の根幹を成すのは第1回受験者(第一希望者)であり、大多数の志願者の入学要因である、「本校の教育理念」と「新入試制度へ向けての対応」を入学者に丁寧にわかりやすく説明していくことで、在校生の満足度を高め、今後の募集活動のポイントとして確立していきたいと思えます。

(中期)

昨年度学園創立95周年を機に、今後の創立100周年、更には、その先の100年を目指して、中学校・高等学校では以下に掲げる4つの方針「BUNKYO100」を定めました。

1. 自立した学習者の育成
2. 世界標準の学力と人間力
3. 日本型教育の継承と発信
4. 人生100年時代の永久サポート校

この方針を受け中学では以下のような施策を展開していく予定です。

- ・一貫教育の基礎となる学習・生活習慣を確立するために、『毎日の記録』を充実・発展させ、タブレット等も活用して、家庭と学校の連携をいっそう密にしていきます。
- ・探究活動を通し、世界を視野に入れた問題解決能力を身につけていきます。そのツールとして絶対的な英語力を身につけ、中3時までにはCEFRのB1レベルを目標として4技能の向上を目指していきます。
- ・食育指導・校外学習等を通し、日本の伝統や文化、作法や礼法など我が国が長年守り伝えて来たことをフィールドワークなど様々な場面で体験し、現代における役割をあらためて様々な角度から検証し、国の内外に発信していきます。
- ・授業時や探究活動等を通して芽生えた学問への関心、日常生活の様々な事象に対す

る気づきを高校→大学→大学院→研究機関と発展させる事が出来る生徒の育成を目標として、卒業後も様々な分野で活躍しているOGと本校を起点に連携できる、ハイブリッドな組織を構築していきたいと思えます。

(高校)

(単年度)

3コース制導入から4年目となり、教育活動の中心に据えて展開してきた探究活動には質量共にレベルアップをめざして取り組んできました。12月に実施した3コース合同での研究成果報告会では生徒たちの研究ポスター作成力とプレゼンテーション力の向上が見られ、確実に成果はあがっています。また多様な価値観を高めていくための国際交流にも多く取り組みました。語学研修では、米国、英国、豪州を訪問し、研修旅行ではシンガポール、マレーシア、豪州を訪問しました。理数中心にタイとの科学相互交流も実施し、相手を迎え入れるためのホスピタリティも年々高くなっています。部活動では、バレーボール部が東京都で優勝し春高バレー全国大会出場など成果を上げましたが、サッカー部、ソフトテニス部なども東京都上位で健闘しています。

広報活動では、大学入試改革を視野に、成果の出ている探究活動を軸に据えての活動を展開しましたが、出願数が、単願では昨年68→本年63、併願では153→113と共に減少となりました。これは、単に高校入試での共学人気だけが原因ではなく、一昨年度の3コース制初年度から大学合格実績が落ち込んだことが最も大きな原因であると考えます。一定の評価を受けている探究活動、部活動の魅力だけでは、偏差値60以上の高学力の受験生に訴求できていないことが減少につながっていると捉えています。今年度は、一人一台のタブレット導入を視野に入れて、全教員がアクティブラーニングの手法を修得し、各教科の授業に一定の方向性を義務付け、各学年での進路指導の連動性を構築することで大学進学への道筋を明確に示す広報活動を展開していくことで、学力中位者だけではなく、学力高位者の入学者の増加につなげていきたいと考えています。

(中期)

文科省が推進している探究活動には、指定されたSSH(2012～2017)、SGHアソシエイト(2015～2019)の中で積極的に展開してきました。研究成果は内外共に一定の評価を受けており、これからの21世紀社会を生きていく生徒たちにとって不可欠な論理的思考力、表現力を養ってくれることは間違いなく、今後も重点的に力を入れていく分野だと考えています。しかし一方で、3コース制を導入してからの高校入試での入学者数は、平成27年度147名、28年度178名、29年度133名、30年度151名、令和元年度133名、2年度101名と全体的には減少傾向で推移してきました。これは上述した通り、大学合格実績が落ち込んだことが最も大きな原因であり、探究活動だけでは高学力の受験生に訴求できていないことが減少につながっていると捉えています。この探究活動に加えて、何が必要なのかを「BUNKYO100」という施策目標にまとめました。(1)自立した学習者の育成(2)世界標準の学力と人間力(3)日本型教育の継承と発信(4)人生100年時代の永久サポート校。この4つの目標の下に具体策を起案実施していくことで、中高一貫体制を強化し、特色ある進学実績を作りだし、生徒数増加へつながっていくと考えています。

## ◇重点課題 【中学高校共通】

(単年度)

全体の概要中期計画で示した「BUNKYO100」の各目標に沿って以下の項目に取り組み教育力の強化を図っていきます。

1. 「自立した学習者の育成」 3コース制での探究活動で課題発見力・仮説検証力・論理的思考力・発信力と明確化しポスター作成を通して高めていく。  
この探究活動を支えるための ICT 機器の配備は今後の必須課題となる。中学1年・高校1年から一人一台のタブレット環境を作ることで新しい学びを創造し ICT 教育を強化していく。この ICT 環境は順次進捗させていく予定であったが、現在の新型コロナ感染拡大に伴う休校措置の中、中高共に2、3年の生徒たちへの ICT 環境整備に早期に着手していきたい。
2. 「世界標準の学力と人間力」 英語4技能の向上を意識した授業、課外の国際塾を通して、中3までに CEFR-B1 レベル、高3までに CEFR-B2 レベルを達成目標とし、その数を増加させていく。国際バカロレア教育の研究を進め、順次取り入れていくことで国際性と多様性のさらなる進化をめざしていく。  
そのために、2019年に国際バカロレア（以下 IB）校であるインターナショナルスクールとの教育提携を以下の項目を柱に始動していく（申請中）。
  - ・2021年に校舎の一部である進学棟に提携校を招聘し、様々な相互交流を実施 していく予定であるが、2020年をそのための重要なプレ期間と位置づけて、可能な交流を開始していく。
  - ・提携校が日常的に英語で教育を展開する環境を、本校生徒たちの英語力向上に活用していくためのプログラムを早期に準備していく。
  - ・IB校の理念である、多様性への適合、実践力の向上、奉仕活動等の社会貢献、といった概念は本学が創立者の島田依史子先生以来ずっと培ってきた理念との共通点も多く、学力面だけでは無く、生活面においても更なる向上に努めていくことで、伝統的  
日本型教育と世界基準教育とを融合したハイブリッド教育を展開していく。
3. 「日本型教育の継承と発信」世界で評価されている日本の教育（礼法・清掃活動・食育・部活動）を通して品位・規律・尊重・情熱を養い、この分野を日本型教育と位置づけて積極的に対外発信していく。
4. 「人生100年時代の永久サポート校」女性のキャリアを生涯に渡って応援できる学校として同窓会との繋がりを強化し、新たな部署を創設することで、卒業生と在校生を繋ぐ活動に取り組んでいく。

(中期)

上記の中期計画である「BUNKYO100」を年次毎に目標を定めて、その達成に取り組んでいくことで、特色ある進路実績の向上と生徒数増加に繋げていきます。

1. 「自立した学習者の育成」 高校での3コース制における探究活動を一貫生がリードしていくための中学からの6年間を見据えた体制作りに取り組む。令和2年度入学の中高1年生から一人一台のタブレット環境を開始することで、令和4年度には全生徒の一人一台タブレット環境が完成する。この3年間で、ICTスキルを向上させると共に一人一人の自立に繋がるような授業形態、受験体制を構築し、特色ある進路実績を作り出していく。ただし、現在の新型コロナ感染拡大に伴う休校措置の中、この環境整備を可能な限り前倒ししながら進めていき、特色ある進路実績を作り出していく。
2. 「世界標準の学力と人間力」 授業・国際塾を通して英語4技能の向上に努め、中3ま

での CEFR-B1 レベル、高3までの CEFR-B2 レベルの達成目標を年次で作成し必要な指導を展開していく。中高が進めてきた探求活動をより活性化しレベルを上げていくために IB 教育の研究を進め、順次取り入れていくことで 国際性と多様性のさらなる進化をめざしていく。そのための研修体制を構築し、人材育成に力を入れていく。

そのために、2019 年に教育提携を結び、2021 年に敷地内招聘を予定している IB 校であるインターナショナルスクールとの教育交流を年次で深化させていく(申請中)。

3. 「日本型教育の継承と発信」 中学からの礼法、給食、清掃を重要な教育と位置づけ、その活動を通して身につける力を明確にし、世界で評価されている日本型の教育として積極的に対外発信していく。また部活動では、強化指定部とそれ以外の部とを明確に区別し、それぞれの目標を設定することで、つける力とめざす進路を明確化していく。
4. 「人生100年時代の永久サポート校」 同窓会との繋がりを強化するために令和2年度から設置する部署を中心にして、年次で卒業生名簿のデータ化に取り組み、卒業生への発信を質量共に充実させていく。

## <文京幼稚園>

### ◇2020(令和 2)単年度計画及び 2024(令和 6)年度中期計画

#### (単年度)

- (1) 新幼稚園教育要領の実施(2019年度に引き続き、カリキュラムマネジメント充実)  
新教育要領を意識し、内容を実践できるよう園の重点目標に、具体的項目を取り上げる。
- (2) 園内施設の改善(2019年度に引き続き、2箇所(園児用トイレ)改修工事)
- (3) 評議員会及び、「学校関係者評価」を実施(保育の質向上)
- (4) 教員の資質向上(研修会参加)、「幼児教育研究」(ふじみ野幼稚園との合同)を発表。
- (5) 新規採用教員育成

#### (中期)

- (1) 新幼稚園教育要領に合った教育課程と指導計画の作成(園内研究で継続)
- (2) 保護者に向けた子育て支援の充実(預かり保育の充実・育児相談)
- (3) 人材早期確保(スカウティング)の体制強化
- (4) 文京学院大学との連携と充実(教育実習、留学生のボランティア受け入れ、学生の研究への協力)

## <ふじみ野幼稚園>

### ◇2020(令和 2)単年度計画及び 2024(令和 6)年度中期計画

#### (単年度)

- (1) 非認知能力向上のため子ども主体の教育・保育の展開
- (2) 育休から職場復帰した教員への配慮
- (3) 人材確保(スカウティング)の体制強化
- (4) 新規採用教員の育成
- (5) 教育の無償化への対応及びスムーズな運営と管理



### (中期)

- (1) 子ども支援に加え親支援を考慮した保育実践研究センター「ふらっと文京」との連携
- (2) 発育・発達が気になる子どもに対応する臨床心理・福祉センター「ほっと」との連携
- (3) 医療分野に対応するための大学保健医療技術学部との連携推進
- (4) インクルーシブ教育の充実と体系化
- (5) 子どもの多国籍化に対応した教育・保育

### <その他学園としての重点課題>

- (1) 100周年を念頭においた「各設置校の事業構想」継続検討  
～大学学部・学科の在り方、中高コース制定着化、大学院将来構想他～

#### ◎大学では「戦略企画委員会」設置

##### 【目的】

内外環境の変化に対して中長期的視野に立ち、教員・職員の協働により、大学運営の重要事項に関して統括的・戦略的な観点から企画・総合調整・推進を行うとともに、学長の円滑な大学運営を補佐

##### 【運営方針】

将来構想の構築、特定の課題解決において、専門的な調査、企画立案を行うための戦略を教職協働でフラットに議論できる組織であること。

##### 【活動基盤】

- ・中長期計画への取り組み
  - ・専門的な調査、企画立案を遂行するために、必要に応じたプロジェクトチームを設置
  - ・透明性の確保
- (2) 高大接続改革スケジュール等も踏まえた学園、各設置校間の連携強化
  - (3) 職員力の強化  
学園創立100周年を越えて持続的に発展していく強い組織の実現のためには、時代に即応し、自らプロデュースできる職員の育成が不可欠です。  
平成30年度より以下のような様々な職員育成施策を開始致しました。  
今後も新たな階層別研修の導入等を進めてまいります。
    - ① 職員による施策提案制度導入  
最優秀提案「スタッフてっぺん賞」該当者は全学FDSD研修会で発表
    - ② 新任管理職(課長・マネジャー階層)研修実施
    - ③ 大学院進学・学位習得を目指す職員への学費補助制度制定
    - ④ 若手職員の「大学開学30周年記念 大学通史」編纂参画  
～足跡振り返りを通じた学園アイデンティティ確認～
    - ⑤ 職員幹部会である木曜会の見直し他経営戦略機能の強化

## 2. 施設・設備の整備関係

2019(令和元)年度は、「改訂キャンパス整備基本デザイン(創立90～100年に向けて平成31年2月7日改定)」の初年度目にあたり、これに沿って施設整備を実施してきまし

た。昨年度に引き続き、特にキャンパス間の施設格差を無くし、安全性向上に向けたキャンパス整備とエネルギー効率の良いバックアップ体制の実現に重点を置き、計画の立案と実施をいたしました。その結果、安全性向上に向けて、本郷キャンパスでは、D館のエレベーター更新工事、ふじみ野キャンパスでは、第二グラウンド万年塀(南面)改修工事、駒込キャンパスでは、第一体育館耐震補強工事(耐震設計は昨年度に実施)及び吊り下げ式バスケットゴール更新工事、本部棟グラウンドの人工芝更新工事を実施いたしました。バリアフリー化の推進としてふじみ野キャンパス正門・東館入口・西館入口付近にバリアフリールート案内板を設置いたしました。建築後25年以上を経過した老朽化施設の修繕として、文京幼稚園乾式トイレへの改修工事及び、駒込キャンパス第一体育館の建物の基本機能である屋根防水更新工事を実施いたしました。視聴覚設備更新工事として、本郷キャンパス中講義室(D館・B館)を実施いたしました。省エネルギー化の推進として、本郷キャンパス学生ラウンジ・講義室(B館・D館)・図書館・中庭等、ふじみ野キャンパス講義室(東館・西館)・中央館体育館等及び、駒込キャンパス本部棟3号館中学教室・図書館・食堂で、LED化への改修工事を実施いたしました。さらに設備関連では、空調機更新工事として、ふじみ野キャンパス講義室・ふらっと文京・介護実習室等及び、軽井沢セミナーハウス厨房・食堂を実施し、また、本郷キャンパスB館では、吸収式冷凍機のオーバーホール工事を実施しました。ふじみ野幼稚園では、老朽化した倉庫の建て替え工事を実施いたしました。

人間学部再編に伴う本郷キャンパスリニューアル計画(本郷キャンパスの教育・研究施設・幼児教育施設・福利厚生施設の集約による利便性の向上・相乗効果を図りながら、受け皿となる施設整備、留学生宿泊施設の再整備を、新築と既存施設の部分的リニューアルを行なうことにより、教育環境の向上を図るもの)に基づき、BGハウス(法人事務局棟、令和元年12月竣工)を新築し、法人事務局をBGハウスに移転し、跡地となるS館8階を、講義室、ゼミ室に改修いたしました。同時に留学生受入れ体制の充実や記念館2階教務スペースの受け皿等として、ユースハウス(新学生交流会館、令和元年12月竣工)を新築し、留学生宿泊施設の他に、茶室・和室、子ども英語教育センター等を設けました。その他に、記念館2階を和室・茶室を人間学部教務グループ事務室等に改修する工事等を実施いたしました。また、C館7階人間学部コミュニケーション社会学科教務グループスペース跡地には、人間学部人間福祉学科共同研究室設置工事を実施いたしました。

## ◇2020(令和2)単年度計画及び2024(令和6)年度中期計画

### 【単年度】

#### 令和2年度予算

具体的整備計画である「改訂キャンパス整備基本デザイン」(平成31年2月7日改定)に基づき、目標達成に向け計画を実行した結果、いくつかの事項において目標を達成することができました。その為、令和2年度は、次の3年に向けて、「改訂キャンパス整備基本デザイン」の整備目標の骨子は替えずに改定した2年目として、目標達成に向けて順次、以下のように整備を進めてまいります。

- (1)安全対策として、ふじみ野キャンパス東館学生ラウンジ及びW-302教室(同時に照明のLED化を推進)、駒込キャンパス進学棟大体育館の天井落下防止対策工事を実施いたします。
- (2)大規模な修繕として、昨年に引き続き文京幼稚園園児用トイレ乾式化改修工事(2分割の2年目)、ふじみ野幼稚園職員室を使いやすいとする為の拡幅工事(台所拡幅、応接室設置)及び、軽井沢セミナーハウス高圧受電設備機器更新工事(令和2年度から3分割)を実施いたします。

- (3)視聴覚更新工事は、本郷キャンパスの D 館教室(昨年度実施の残分)と、ふじみ野キャンパスの E-303 教室他で実施し、教育力向上をはかります。
- (4)空調設備の更新工事は、本郷キャンパス体育館、ふじみ野キャンパス東館教室及び、軽井沢セミナーハウスゼミ室(昨年に引き続き 2 年目)で実施し、駒込キャンパスでは、引き続き順次実施します。また、本郷キャンパスでは、B 館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事を令和 2 年度から令和 6 年度まで 5 年計画で順次実施いたします。
- (5)省エネルギー化については、優先的に教室照明の LED 化工事を実施いたします。本郷キャンパス体育館、ふじみ野キャンパス教室、駒込キャンパス教室及び、軽井沢セミナーハウス廊下で LED 化工事を実施いたします。
- (6)空調設備・照明設備更新によってエネルギー消費性能の向上にむけ補助金を活用しながらエコキャンパス化を推進してまいります。
- (7)看護学研究科開設のため C 館 1 1 階のサロンド文京を実習室、大学院生室等に改修する工事を実施いたします。
- (8)駒込キャンパス本部棟、進学棟の教室及び間仕切り等の改修工事を実施いたします。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として 1, 0 7 6 百万円（一般施設・設備の整備等予算 7 3 4 百万円、施設整備特別予算 3 4 2 百万円）の設備投資、および施設・設備の整備事業を推進することとし、下記にその内容を示します

◇ 令和 2 年度 一般施設・設備の整備等の予算

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を行います。

① 本郷キャンパス(西・東キャンパス)			
a.	体育館照明更新工事	10百万円	
b.	学生ラウンジ カウンター席上部照明設置工事	3百万円	
c.	体育館空調機更新工事	36百万円	
d.	B 館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事	4百万円	
e.	視聴覚更新工事	11百万円	
f.	S 館 3 階 LLC レイアウト・照明改修工事	11百万円	
g.	B 館屋上防水トップコート更新工事	5百万円	
h.	S,D,B 防犯カメラ設置工事	8百万円	
i.	C 館、地下鉄への出入口の入退管理	1百万円	
j.	S 館エレベーター防犯カメラ設置工事	3百万円	
k.	大学入学共通テスト用倉庫改修工事	11百万円	
l.	共同研究棟非常用発電機設置工事	9百万円	
m.	東館キュービクル改修工事	1百万円	
n.	仮設駐輪スペース植栽復旧工事	1百万円	
o.	共同研究棟モール撤去工事他	7百万円	
p.	設備機器費	6百万円	
q.	施設課管理図面類の電子化	3百万円	

r.	高額備品購入費	6百万円	
s.	厨房機器メンテナンス、修繕費	1百万円	
t.	変電設備整備対応費	3百万円	
u.	視聴覚設備保守費	3百万円	
v.	入退管理保守費	1百万円	
w.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
x.	自家発電設備負荷試験費	1百万円	
y.	非恒常修繕費	15百万円	小計 161百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	東館学生ラウンジ 天井落下防止対策工事	110百万円	
b.	W-302 天井落下防止対策工事	66百万円	
c.	教室照明LED化工事	11百万円	
d.	東館空調機更新工事	34百万円	
e.	W302 冷温水発生機ポンプ更新工事	2百万円	
f.	視聴覚設備更新工事	11百万円	
g.	E-303 テレビ会議システム更新工事	5百万円	
h.	視聴覚用スクリーン移設工事	1百万円	
i.	中央館玄関自動ドア化工事	3百万円	
j.	消防設備受信盤更新工事	33百万円	
k.	アトリウム 上部排煙窓修理工事	8百万円	
l.	アトリウム 区画パーティション設置工事	4百万円	
m.	東館、西館学食ハイカウンターコンセントLAN 設置工事	1百万円	
n.	ひかり電話化（電話交換機更新工事）	9百万円	
o.	学生会館屋根防水保護塗装工事	1百万円	
p.	中央館PH屋根防水保護塗装工事	1百万円	
q.	東館 E-208、305、W-308 机更新	7百万円	
r.	スクールバス停舗装補修工事	2百万円	
s.	旧緑ヶ丘寮維持管理費（フェンス工事）	3百万円	
t.	厨房機器メンテナンス及び修繕費	1百万円	
u.	変電設備更新費	1百万円	
v.	視聴覚設備保守費	3百万円	
w.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
x.	非恒常修繕費	18百万円	小計 336百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)			
a.	進学棟大体育館天井落下防止対策工事	116百万円	
b.	照明器具LED化工事	11百万円	

	c.	空調機更新工事	8百万円	
	d.	全熱交換器エレメント交換給水キット交換	2百万円	
	e.	本部棟 屋上 キュービクルの錆発生	4百万円	
	f.	本部棟 1号棟防水シルバー塗装塗り替え	1百万円	
	g.	本部棟ウッドデッキ根太交換修理	5百万円	
	h.	本部棟 教室 扉修理	2百万円	
	i.	進学棟プレハブ冷蔵冷凍庫更新	2百万円	
	j.	厨房機器更新、メンテナンス及び修繕費	3百万円	
	k.	視聴覚設備保守費他	1百万円	
	l.	非恒常修繕費	6百万円	小計 161百万円
④ 文京幼稚園				
	a.	旧館トイレ改修工事(2年目)	16百万円	
	b.	非恒常修繕費	1百万円	小計 17百万円
⑤ ふじみ野幼稚園				
	a.	職員室拡張工事(台所拡張、応接室設置)	12百万円	
	b.	水道管の取り換えとバルブ設置工事	2百万円	
	c.	非恒常修繕費	2百万円	小計 16百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)				
	a.	バリアフリー対応工事	2百万円	
	b.	非恒常修繕費	2百万円	小計 4百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス				
	a.	既存空調機更新工事(残分)	3百万円	
	b.	廊下照明 LEDへ更新	1百万円	
	c.	各所補修(誘導灯バッテリー、ペンキ補修)	1百万円	
	d.	高圧受電設備機器更新工事(3分割)	2百万円	
	e.	厨房機器更新費	1百万円	
	f.	設備機器更新費	1百万円	
	g.	設備維持管理費他	1百万円	
	h.	非恒常修繕費	1百万円	小計 11百万円
⑪ 法人関連				

a.	Office365 メールシステム使用料	2百万円	
b.	特殊建築物の定期報告（設備・E V）	1百万円	
c.	各種事務経費	22百万円	小計 25百万円
合 計			734百万円

◇本郷キャンパス 施設整備特別予算（令和2年度予算計上分）

① 本郷キャンパス			
a.	看護学研究科対応改修工事	55百万円	
b.	上記の家具	7百万円	
c.	看護学研究科対応 購入備品等	10百万円	
d.	倉庫新築工事(旧斎藤邸解体工事含む)	37百万円	
e.	学生交流会館 ドミトリーユニット他	11百万円	小計 120百万円
②駒込キャンパス			
a.	進学棟改修工事	120百万円	
b.	本部棟改修工事	99百万円	
c.	本部棟サイン工事	3百万円	小計 222百万円
合 計			342百万円

**【中期】**

令和3年度計画

- 令和3年度以降は、「改訂キャンパス整備基本デザイン」の整備目標達成に向けて令和6年度まで、順次、以下のように整備を進めていきたく中長期計画を策定いたしました。
- (1)安全対策として、本郷キャンパス記念館(警備受付裏)エレベーター更新工事、ふじみ野キャンパス W-302 教室の舞台吊り物設備更新工事及び、駒込キャンパスジャッシーホールの天井落下防止対策工事（同時に照明のLED化を推進）を計画いたします。
  - (2)大規模な修繕(更新)として、本郷キャンパス C 館非常用発電機更新工事、ふじみ野キャンパス消防設備受信盤更新工事・RF 防水更新工事、ドームふじみ野冷温水発生機配管更新工事及び、軽井沢セミナーハウス高圧受電設備機器更新工事(令和2年度から3分割)を計画いたします。
  - (3)視聴覚更新工事は、本郷キャンパス仁愛ホール舞台、文京幼稚園ホール及び、ふじみ野キャンパス教室で計画し、教育力向上をはかります。
  - (4)空調設備の更新工事は、ふじみ野キャンパス及び駒込キャンパスで引き続き順次計画いたします。また、本郷キャンパスでは、B 館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事(5分割の2年目)を昨年に引き続き計画いたします。
  - (5)省エネルギー化については、優先的に教室照明のLED化工事を計画いたします。本郷キャンパス仁愛ホール舞台、ふじみ野キャンパス W-302 教室舞台、駒込キャンパスジャッシーホール及び、更に各キャンパス教室でLED化工事を計画いたします。
  - (6)空調設備・照明設備更新によってエネルギー消費性能の向上にむけ補助金を活用しながらエコキャンパス化を推進してまいります。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として646百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を計画することとし、下記にその内容を示します。

◇ 令和3年度 一般施設・設備の整備等の予算

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を計画いたします。

① 本郷キャンパス(西・東キャンパス)			
a.	体育館窓硝子飛散フィルム貼り工事	3百万円	
b.	記念館警備受付裏EV更新工事	45百万円	
c.	仁愛ホール舞台照明器具更新(LED化)工事	28百万円	
d.	教室照明LED化工事	11百万円	
e.	B館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事	4百万円	
f.	仁愛ホール視聴覚設備更新工事	22百万円	
g.	視聴設備更新工事	11百万円	
h.	屋外喫煙所設置工事	11百万円	
i.	C館非常用発電機更新工事	44百万円	
j.	設備機器費	6百万円	
k.	施設課管理図面類の電子化	3百万円	
l.	高額備品購入費	6百万円	
m.	厨房機器メンテナンス、修繕費	1百万円	
n.	変電設備整備対応費	3百万円	
o.	視聴覚設備保守費	3百万円	
p.	入退管理保守費	1百万円	
q.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
r.	自家発電設備負荷試験費他	1百万円	
s.	非恒常修繕費	15百万円	小計 219百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	W-302 舞台照明、吊りもの設備更新工事	69百万円	
b.	教室照明LED化工事	11百万円	
c.	空調機更新工事	33百万円	
d.	視聴覚設備更新工事	11百万円	
e.	アトリウム視聴覚設備工事	7百万円	
f.	東館玄関自動ドア化工事	2百万円	
g.	RF防水更新工事	11百万円	
h.	東館、中央館の机、椅子更新	4百万円	
i.	西1号館階段上裏塗装補修工事	3百万円	
j.	厨房機器メンテナンス及び修繕費	1百万円	
k.	変電設備更新工事	1百万円	

	l.	視聴覚設備保守費	3百万円	
	m.	フロン法改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
	n.	非恒常修繕費	18百万円	小計 175百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)				
	a.	ジャッシーホール天井落下防止対策工事	150百万円	
	b.	LED化工事	11百万円	
	c.	空調機更新工事	8百万円	
	d.	本部棟 1、3号棟RF防水塗装塗り替え工事	2百万円	
	e.	本部棟 教室 廊下の塗り替え、補修工事	6百万円	
	f.	本部棟図書館側屋内階段段板改修工事	3百万円	
	g.	厨房機器更新、メンテナンス及び修繕工事	3百万円	
	h.	視聴覚設備保守費他	1百万円	
	i.	非恒常修繕費	6百万円	小計 190百万円
④ 文京幼稚園				
	a.	ホール視聴覚設備更新工事	3百万円	
	b.	非恒常修繕費	1百万円	小計 4百万円
⑤ ふじみ野幼稚園				
	a.	保育室外壁側内壁塗装漏水による剥がれ修繕工事	2百万円	
	b.	非恒常修繕費	2百万円	小計 4百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)				
	a.	寮室冷温水発生機配管更新工事	13百万円	
	b.	非恒常修繕費	2百万円	小計 15百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス				
	a.	高圧受電設備機器更新工事(3分割)	7百万円	
	b.	厨房器具更新工事	1百万円	
	c.	設備機器更新費	1百万円	
	d.	設備維持管理費他	1百万円	
	e.	非恒常修繕費	1百万円	小計 11百万円
⑪ 法人関連				
	a.	Office365 メールシステム使用料	2百万円	



	b.	特殊建築物の定期報告（設備・EV）	1百万円	
	c.	各種事務経費	22百万円	小計 25百万円
合 計				646百万円

#### 令和4年度

- (1)安全対策として、本郷キャンパス記念館(図書館)エレベーター更新工事、ふじみ野キャンパスアトリウム天井落下防止対策工事及び、駒込キャンパス第一体育館天井落下防止対策工事を計画いたします。
- (2)大規模な修繕(更新)として、本郷キャンパス C 館屋上防水更新工事、ふじみ野キャンパス RF 防水更新工事・西1号館ペントハウス屋上改修工事・学生会館ゴムチップ舗装改修工事、ふじみ野幼稚園園庭改修工事及び、ドームふじみ野寮室キッチン給湯工事を計画いたします。
- (3)視聴覚更新工事は、本郷キャンパス体育館(メセナ)・教室及び、ふじみ野キャンパス W-102 心理臨床福祉センター・教室で計画し、教育力向上をはかります。
- (4)空調設備の更新工事は、ふじみ野キャンパスW-302 教室個別空調化・体育館バズーカ設置等及び、駒込キャンパスで引き続き順次計画いたします。また、本郷キャンパスでは、B 館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事(5分割の3年目)及びC 館屋上チラーユニット分解整備を計画いたします。
- (5)省エネルギー化については、優先的に教室照明のLED化工事を計画いたします。本郷キャンパス仁愛ホール舞台(2年目)・体育館舞台、駒込キャンパスジャッシーホール舞台及び、更に各キャンパス教室でLED化工事を計画いたします。
- (6)空調設備・照明設備更新によってエネルギー消費性能の向上にむけ補助金を活用しながらエコキャンパス化を推進してまいります。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として654百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を計画することとし、下記にその内容を示します。

#### ◇ 令和4年度 一般施設・設備の整備等の予算

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を計画いたします。

① 本郷キャンパス(西・東キャンパス)				
	a.	記念館図書館EV更新工事	45百万円	
	b.	仁愛ホール舞台照明LED化工事	43百万円	
	c.	体育館舞台照明LED化工事	18百万円	
	d.	教室照明LED化工事	11百万円	
	e.	C 館屋上チラーユニット分解整備	3百万円	
	f.	B 館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事	4百万円	
	g.	メセナ視聴覚設備更新工事	6百万円	
	h.	S 館8階会議室天井マイク設置工事	2百万円	
	i.	視聴設備更新工事	11百万円	

j.	C館屋上防水更新工事	5百万円	
k.	設備機器費	6百万円	
l.	高額備品購入費	6百万円	
m.	厨房機器メンテナンス、修繕費	1百万円	
n.	変電設備整備対応費	3百万円	
o.	視聴覚設備保守費	3百万円	
p.	入退管理保守費	1百万円	
q.	特殊建築物定期調査費	1百万円	
r.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
s.	自家発電設備負荷試験費他	1百万円	
t.	非恒常修繕費	15百万円	小計 186百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	アトリウム天井落下防止対策工事	150百万円	
b.	教室照明 LED 化工事	11百万円	
c.	空調機更新工事	11百万円	
d.	W302 教室個別空調化工事	50百万円	
e.	体育館バスルーム設置工事及び電源工事	16百万円	
f.	視聴覚設備更新工事	11百万円	
g.	W-102(心理臨床福祉センター)視聴覚設備更新工事	3百万円	
h.	西1号館PH、屋上改修工事	9百万円	
i.	RF防水更新工事	11百万円	
j.	学生会館ゴムチップ舗装改修工事	10百万円	
k.	厨房機器メンテナンス及び修繕費	1百万円	
l.	変電設備更新費	1百万円	
m.	視聴覚設備保守費	3百万円	
n.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
o.	非恒常修繕費	18百万円	小計 306百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)			
a.	第1体育館天井落下防止対策工事	10百万円	
b.	LED化工事	11百万円	
c.	ジャシーホール舞台照明 LED 化工事	40百万円	
d.	空調機更新工事	8百万円	
e.	本部棟 教室 廊下の塗り替え、補修工事	6百万円	
f.	厨房機器更新、メンテナンス及び修繕費	3百万円	
g.	視聴覚設備保守費他	1百万円	
h.	教室ファンコイルユニットクリーニング費	1百万円	

	i.	非恒常修繕費	6百万円	小計 86百万円
④ 文京幼稚園				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑤ ふじみ野幼稚園				
	a.	園庭改修工事	20百万円	
	b.	2階保育室前廊下床フローリング改修工事	5百万円	
	c.	メロンホール前ゴムチップ舗装更新工事	2百万円	
	d.	非恒常修繕費	2百万円	小計 29百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)				
	a.	寮室 キッチンから温水出す工事	11百万円	
	b.	非恒常修繕費	2百万円	小計 13百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス				
	a.	高圧受電設備機器更新工事(3分割)	1百万円	
	b.	厨房器具更新工事	1百万円	
	c.	設備機器更新費	1百万円	
	d.	設備維持管理費他	1百万円	
	e.	非恒常修繕費	1百万円	小計 5百万円
⑪ 法人関連				
	a.	Office365 メールシステム使用料	2百万円	
	b.	特殊建築物の定期報告(設備・EV)	1百万円	
	c.	各種事務経費	22百万円	小計 25百万円
合 計				654百万円

#### 令和5年度

- (1) 安全対策として、本郷キャンパス仁愛ホール天井落下防止対策工事・仁愛ホールエレベーター更新工事、ふじみ野キャンパス東館北棟外壁タイル脱落防止対策工事及び、駒込キャンパス進学棟外壁タイル調査を計画いたします。
- (2) 大規模な修繕(更新)として、ふじみ野キャンパスRF防水更新工事を計画いたします。
- (3) 視聴覚更新工事は、本郷キャンパス及び、ふじみ野キャンパス教室で計画し、教育力向上をはかります。
- (4) 空調設備の更新工事は、ふじみ野キャンパス及び、駒込キャンパスで引き続き順次計画

いたします。また、本郷キャンパスでは、B館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事（5分割の4年目）を計画いたします。

- (5) 省エネルギー化については、優先的に教室照明のLED化工事を計画いたします。本郷キャンパス仁愛ホール客室・教室、ふじみ野キャンパス及び、駒込キャンパス教室でLED化工事を計画いたします。
- (6) 空調設備・照明設備更新によってエネルギー消費性能の向上にむけ補助金を活用しながらエコキャンパス化を推進してまいります。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として662百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を計画することとし、下記にその内容を示します。

◇ 令和5年度 一般施設・設備の整備等の予算

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を計画いたします。

① 本郷キャンパス(西・東キャンパス)			
a.	仁愛ホール天井落下防止対策工事	300百万円	
b.	記念館仁愛ホールEV更新工事	45百万円	
c.	仁愛ホール客席照明LED化工事	75百万円	
d.	教室照明LED化工事	11百万円	
e.	B館ロスナイ室内機 ファンモーター更新工事	4百万円	
f.	視聴設備更新工事	11百万円	
g.	キャリアセンター夜間通路確保工事	4百万円	
h.	設備機器費	6百万円	
i.	高額備品購入費	6百万円	
j.	厨房機器メンテナンス、修繕費	1百万円	
k.	変電設備対応費	3百万円	
l.	視聴覚設備保守費	3百万円	
m.	入退管理保守費	1百万円	
n.	70V法改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
o.	自家発電設備負荷試験費他	1百万円	
p.	非恒常修繕費	15百万円	小計 487百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	東館北棟外壁タイル脱落防止対策工事	21百万円	
b.	教室照明LED化工事	11百万円	
c.	空調機更新工事	11百万円	
d.	視聴覚設備更新工事	11百万円	
e.	RF防水更新工事	11百万円	
f.	東、中央館の机、椅子更新	10百万円	
g.	厨房機器メンテナンス及び修繕費	1百万円	

	h.	変電設備更新	1百万円	
	i.	視聴覚設備保守費	3百万円	
	j.	フッ素法改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
	k.	非恒常修繕費	18百万円	小計 99百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)				
	a.	進学棟外壁タイル調査費	6百万円	
	b.	LED化工事	11百万円	
	c.	空調機更新工事	8百万円	
	d.	厨房機器更新、メンテナンス及び修繕費	3百万円	
	e.	視聴覚設備保守費他	1百万円	
	f.	教室ファンコイルユニットクリーニング費	1百万円	
	g.	非恒常修繕費	6百万円	小計 36百万円
④ 文京幼稚園				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑤ ふじみ野幼稚園				
	a.	非恒常修繕費	2百万円	小計 2百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館				
	a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)				
	a.	ゲストルームに男性が泊まれるように入口の扉設置	3百万円	
	b.	非恒常修繕費	2百万円	小計 5百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス				
	a.	厨房器具更新工事	1百万円	
	b.	設備機器更新費	1百万円	
	c.	設備維持管理費他	1百万円	
	d.	非恒常修繕費	1百万円	小計 4百万円
⑪ 法人関連				
	a.	Office365 メールシステム使用料	2百万円	
	b.	特殊建築物の定期報告(設備・EV)	1百万円	
	c.	各種事務経費	22百万円	小計 25百万円
合 計				662百万円

## 令和6年度

- (1) 安全対策として、本郷キャンパスC館エレベーター更新工事、ふじみ野キャンパス東館大学院棟外壁タイル脱落防止対策工事・小荷物昇降機更新工事及び、駒込キャンパス本部棟外壁タイル調査を計画いたします。
- (2) 大規模な修繕(更新)として、ふじみ野キャンパス RF 防水更新工事・テニスコート脇駐車場アスファルト舗装工事を計画いたします。
- (3) 視聴覚更新工事は、本郷キャンパス及び、ふじみ野キャンパス教室で計画し、教育力向上をはかります。
- (4) 空調設備の更新工事は、ふじみ野キャンパス及び、駒込キャンパスで引き続き順次計画いたします。また、本郷キャンパスでは、B館ロスナイ室内機ファンモーター更新工事(5分割の5年目)を計画いたします。
- (5) 省エネルギー化については、優先的に教室照明のLED化工事を計画いたします。本郷キャンパス、ふじみ野キャンパス及び、駒込キャンパス教室でLED化工事を計画いたします。
- (6)空調設備・照明設備更新によってエネルギー消費性能の向上にむけ補助金を活用しながらエコキャンパス化を推進してまいります。

以上の整備計画の予算計上を行った結果、施設の総投資額として332百万円の設備投資、および施設・設備の整備事業を計画することとし、下記にその内容を示します。

### ◇ 令和6年度 一般施設・設備の整備等の予算

次の区分による一般施設・設備等の整備等事業を計画いたします。

① 本郷キャンパス(西・東キャンパス)			
a.	C館EV更新工事	50百万円	
b.	教室照明LED化工事	11百万円	
c.	中央監視装置一元化(C、D、記念館)	4百万円	
d.	B館ロスナイ室内機 ファンモーター更新工事	4百万円	
e.	視聴設備更新工事	11百万円	
f.	設備機器費	6百万円	
g.	高額備品購入費	6百万円	
h.	厨房機器メンテナンス、修繕費	1百万円	
i.	変電設備整備対応費	3百万円	
j.	視聴覚設備保守費	3百万円	
k.	入退管理保守費	1百万円	
l.	70法改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
m.	自家発電設備負荷試験費他	1百万円	
n.	非恒常修繕費	15百万円	小計 117百万円
② ふじみ野キャンパス			
a.	東館大学院棟外壁タイル脱落防止対策工事	17百万円	

b.	教室照明 LED 化工事	11百万円	
c.	空調機更新工事	11百万円	
d.	視聴覚設備更新工事	11百万円	
e.	西3号館屋上太陽光発電工事	25百万円	
f.	学生交流会館車椅子用階段エスカレーター設置工事	8百万円	
g.	R F 防水更新工事	11百万円	
h.	小荷物昇降機更新工事	10百万円	
i.	テニスコート脇駐車場アスファルト舗装改修工事	15百万円	
j.	厨房機器メンテナンス及び修繕費	1百万円	
k.	変電設備更新費	1百万円	
l.	視聴覚設備保守費	3百万円	
m.	法令改正に伴う各種設備定期点検費	1百万円	
n.	非恒常修繕費	17百万円	小計 142百万円
③ 駒込キャンパス(中学校・高等学校)			
a.	本部棟外壁タイル調査費	6百万円	
b.	LED化工事	11百万円	
c.	空調機更新工事	8百万円	
d.	厨房機器更新、メンテナンス及び修繕費	3百万円	
e.	視聴覚設備保守費他	1百万円	
f.	教室ファンコイルユニットクリーニング費	1百万円	
g.	非恒常修繕費	6百万円	小計 36百万円
④ 文京幼稚園			
a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑤ ふじみ野幼稚園			
a.	非恒常修繕費	2百万円	小計 2百万円
⑥ ドーム西片(学生寮)			
a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑦ ドーム本郷(学生寮)			
a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑧ 学生交流会館			
a.	非恒常修繕費	1百万円	小計 1百万円
⑨ ドームふじみ野(学生寮)			
a.	非恒常修繕費	2百万円	小計 2百万円
⑩ 軽井沢セミナーハウス			
a.	厨房器具更新工事	1百万円	
b.	設備機器更新費	1百万円	

	c.	設備維持管理費他	1百万円	
	d.	非恒常修繕費	1百万円	小計 4百万円
① 法人関連				
	a.	Office365 メールシステム使用料	2百万円	
	b.	特殊建築物の定期報告（設備・EV）	1百万円	
	c.	各種事務経費	22百万円	小計 25百万円
合 計				332百万円

### 3. 2020（令和2）年度予算編成

2020（令和2）年度は、各キャンパス等の事業計画に基づき、事業間相互の調整を行いながら2月7日に開催された予算委員会に基づき別添のと通りの予算を編成しました。（次回4月28日に再度予算委員会を開催して見直し予定）

まず、施設面では2019年度に「改定キャンパス整備基本デザイン(創立90～100周年に向けて)」の主要事業である本郷キャンパスリニューアル計画(新棟建設を含む)に基づく工事が終了、今年度は既存設備についても安全対策を中心に整備を進めます。具体的には、本郷キャンパスでは体育館空調機更新工事等（161百万円）、ふじみ野キャンパスでは学生ラウンジ・大講義室の天井落下防止対策工事や空調機更新工事を含めた整備工事等（336百万円）、駒込キャンパスでは進学棟天井落下防止対策工事等（161百万円）、文京幼稚園整備工事（17百万円）、ふじみ野幼稚園整備工事（16百万円）などの支出があります。また、教育・研究活動や学生・生徒の学習支援・課外活動支援に支出する経費である教育研究経費は29億4千6百万円と見込んでおります。

一方、収入面では令和元年度は、大学院研究科及び中学校高等学校で入学定員未充足となりましたが、大学は全学部で定員を確保致しました。その結果、学生生徒等納付金収入は69億6千3百万円（対前年1千4百万円増）の見込みとなりました。また、補助金収入は11億3千9百万円（対前年7千万円増）となり、経常収支は単年度で3億6千1百万円の支出超過、基本金組入前当年度収支差額で4億1千9百万円の支出超過の予算を編成することとなりました。

学園としては、今後の厳しい競争環境に耐え、限られた財源をより効果的に活用できるよう予算執行の段階でも肌理細かな管理、工夫を重ねて参ります。

#### ◎[中期財務計画について]

なお中期財務計画につきましては、現行の定員厳格化及び「23区規制」の規制の下では、定員増や学部新設といった教育拡充策は実施できず、収入の大宗を占める大学学納金収入増は困難なものがあります。一方、支出面においては、人件費の占める割合が大きい中で、中期的には賃金上昇圧力が今後とも続くことも十分予想されるため、経常収支における収入超過維持には厳しい環境であることは否めないのが現状です。

然しながら、中学校・高等学校や大学院の募集強化のための更なる教育改革実施は勿論のこと、学納金以外の収入強化策も並行して検討してまいります。



#### 4. 法人運営関係

[財政関係指標]

\*平成 27 年 4 月 1 日に「学校法人会計基準の一部を改正する省令」が施行されてことに伴い従前の「帰属収入」は「事業活動収入」に科目名称変更し、教育研究経費比率、管理経費比率、人件費比率は対帰属収入から対経常収入の比率となった。

- 1) 現行の収容定員規模及びこれを支える教員・事務組織を維持し、運営上の収支均衡を図ります。とくに、経常収支の根幹である「学生・生徒等納付金」と「人件費」のバランスに留意し、適正と判断される比率の確保を目指します。

	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度計画
人件費比率 (対経常収入比率)	57.6%	58.7%	58.3%
人件費依存比率 (对学生生徒等納付金比率)	71.0%	73.6%	71.3%

- 2) 教育研究に必要な一定の経費を投下し、収入との均衡を図りつつ教育環境の維持改善を図ります。

教育研究経費比率 (教育研究費/経常収入)	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度計画
	30.8%	30.3%	34.6%

- 3) 管理経費

部門別予算の見直し等により、極力管理経費の抑制に努めます。

管理経費比率 (管理経費/経常収入)	平成 30 年度実績	令和元年度実績	令和 2 年度計画
	10.5%	11.2%	11.3%

[役員および監事の氏名及び役職名]

(令和2年5月1日現在)

役職	職名・担当職務	氏名	現職
理事	理事長	島田昌和	文京学院大学教授
理事	大学担当	櫻井隆	文京学院大学学長、文京学院大学教授
理事	大学教学担当	福井勉	文京学院大学副学長、文京学院大学教授
理事	(外部)	橘川武郎	国際大学大学院教授 東京大学名誉教授、一橋大学名誉教授
理事	法人事務局担当 財務担当	竹内秀和	学校法人文京学園法人事務局長
理事	中学校高等学校担当	清水直樹	文京学院大学女子高等学校校長
理事	大学事務局担当	森岡俊也	文京学院大学統括ディレクター 文京学院大学本郷キャンパスディレクター 学校法人文京学園法人事務局副事務局長
理事	ふじみ野キャンパス 大学事務局担当	森村幸夫	文京学院大学統括ディレクター代行 文京学院大学ふじみ野キャンパスディレクター
理事	(外部)	張淑雲	株式会社千手Soft代表取締役
監事		清水秀樹	特定非営利法人教職員学校理事長
監事		煙山力	

以上

## II 設置学校の状況

### 1. 設置する学校・学部・学科等の入学定員及び学生数の状況

(令和2年5月1日現在)

名 称	入学 定員	令和2年度 入学者数(男子)*	収容 定員	学生生徒 在籍者数
文京学院大学	人	人	人	人
大 学 院 経営学研究科	30	14 ( 11)	60	35
大 学 院 人間学研究科	30	15 ( 6)	60	27
大 学 院 外国語学研究科	10	3 ( 1)	20	4
大 学 院 保健医療科学研究科	20	19 ( 15)	40	33
経 営 学 部 経営コミュニケーション学科	260	267 (138)	1,040	1,087
人 間 学 部 コミュニケーション社会学科	60	74 ( 40)	240	316
児童発達学科	130	120 ( 31)	520	485
人間福祉学科	110	111 ( 61)	440	341
心理学科	100	112 ( 56)	400	432
外 国 語 学 部 英語コミュニケーション学科	260	265 (95)	1,040	1,060
保健医療技術学部 理学療法学科	80	81 ( 41)	320	325
作業療法学科	40	44 ( 8)	160	150
臨床検査学科	80	88 ( 19)	320	331
看護学科	100	108 ( 5)	400	395
大 学 計	1,310	1,321 (527)	5,060	5,021
文京学院大学女子高等学校	325	178 —	975	598
文京学院大学女子中学校	150	94 —	450	303
文京学院大学文京幼稚園	60	64 ( 32)	180	188
文京学院大学ふじみ野幼稚園	100	73 ( 31)	360	234
合 計	1,945	1,731 (590)	7,025	6,344

## 2. 設置する学校・学部・学科等の教職員数の状況

### (1) 大学教員

[専任基準] (令和2年5月1日)

学部等	教授	准教授	助教	助手	専任教員 合計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学 経営学部	15	7	2	—	24(±0)	(7)
人間学部	29	19	5	2	55(▲2)	(17)
外国語学部	16	13	1	—	30(+3)	(12)
保健医療技術学部	23	14	19	17	70(▲2)	(37)
経営学研究科	2	—	—	—	2(+1)	(2)
人間学研究科	—	(人間学部と兼任)			0(±0)	—
外国語学研究科	(外国語学部と兼任)					
保健医療科学研究科	(保健医療技術学部と兼任)					
合計	83	47	31	20	181(±0)	(75)

### (2) 高等学校・中学校等、幼稚園教員

[専任基準] (令和2年5月1日)

設置校名	専任教諭	合計 (前年比)	有期契約 教員
文京学院大学女子高等学校	37	37 (▲1)	(5)
文京学院大学女子中学校	21	21 (±0)	(3)
文京学院大学文京幼稚園	15	15 (+1)	(7)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	21	21 (▲2)	(7)
合計	94	94 (▲2)	(22)

### (3) 職員

[専任基準] (令和2年5月1日)

設置校等	専任	常勤嘱託等	合計 (前年比)	有期契約 職員
文京学院大学	125	6	131(+1)	(31)
文京学院大学女子高等学校	9	1	10(▲1)	(3)
文京学院大学女子中学校	(高等学校と兼任)			
文京学院大学文京幼稚園	1	—	1(±0)	(0)
文京学院大学ふじみ野幼稚園	1	—	1(±0)	(0)
学校法人文京学園	25	2	27(±0)	(5)
合計	161	9	170(±0)	(39)

### Ⅲ 2020（令和2）年度収支予算

#### 資金収支予算書（要約当初予算）

2020年4月 1日から  
2021年3月31日まで

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
学生生徒等納付金収入	6,962,810	人件費支出	4,915,220
手数料収入	123,270	教育研究経費支出	1,991,290
寄付金収入	20,900	管理経費支出	894,170
補助金収入	1,138,713	借入金等利息支出	0
資産売却収入	600,000	借入金等返済支出	750
付随事業・収益事業収入	120,510	施設関係支出	760,030
受取利息・配当金収入	17,100	設備関係支出	395,250
雑 収 入	136,703	資産運用支出	1,272,000
借入金等収入	1,000	その他の支出	1,694,635
前受金収入	1,451,290	予 備 費	50,000
その他の収入	718,586	資金支出調整勘定	△ 1,053,851
資金収入調整勘定	△ 1,500,529	翌年度繰越支払資金	5,336,589
前年度繰越支払資金	6,465,730		
収入の部合計	16,256,083	支出の部合計	16,256,083

#### 事業活動収支予算書（要約当初予算）

2020年4月 1日から  
2021年3月31日まで

（単位：千円）

科 目		予 算 額	科 目		予 算 額	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	6,962,810	事業活動収入の部	資産売却差額	0	
	手 数 料	123,270		その他の特別収入	4,050	
	寄 付 金	20,910		特別収入計	4,050	
	経常費等補助金	1,138,713	特別収支	事業活動支出の部	資産処分差額	12,480
	付随事業収入	120,510		その他の特別支出	0	
	雑 収 入	136,703		特別支出計	12,480	
	教育活動収入計	8,502,916		特別収支差額	△ 8,430	
	教育活動支出の部	人件費	4,963,960	予備費		50,000
		教育研究経費	2,946,200		基本金組入前当年度収支差額	△ 419,044
		管理経費	962,870		基本金組入額合計	△ 1,853,010
徴収不能額等		0	当年度収支差額		△ 2,272,054	
教育活動支出計		8,873,030	前年度繰越収支差額		△ 8,405,856	
教育活動収支差額	△ 370,114		基本金取崩額	0		
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	9,500	翌年度繰越収支差額	△ 10,677,910		
	その他の教育活動外収入	0	(参考)	事業活動収入計	8,516,466	
	教育活動外収入計	9,500		事業活動支出計	8,935,510	
	教育活動外支出の部	借入金等利息		0		
		その他の教育活動外支出		0		
教育活動外支出計	0					
教育活動外収支差額	9,500					
経常収支差額	△ 360,614					

#### IV 中期計画

### 中期計画 事業活動収支計算概要

令和元年度 決算確定  
 令和2年度 中期計画予算  
 令和3年度 中期計画予算  
 令和4年度 中期計画予算  
 令和5年度 中期計画予算  
 令和6年度 中期計画予算

※各値は、百万円台に四捨五入のため、計算すると計・小計は合わない場合がある。

[百万円]

区分	科目	令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		
		(決算確定)	(中期計画予算)		(中期計画予算)		(中期計画予算)		(中期計画予算)		(中期計画予算)		
		(a)	(b)	(b) - (a)	(c)	(c) - (b)	(d)	(d) - (c)	(e)	(e) - (d)	(f)	(f) - (e)	
		総計	総計		総計		総計		総計		総計		
教育活動収支	学生生徒等納付金 a	6,949	7,094	145	7,114	20	6,999	△ 114	7,039	40	7,065	26	
	手数料	177	123	△ 53	123	0	123	0	123	0	123	0	
	寄付金	23	21	△ 2	21	0	21	0	21	0	21	0	
	経常費等補助金	1,069	1,139	69	1,139	0	1,139	0	1,139	0	1,139	0	
	付随事業収入	124	121	△ 4	121	0	121	0	121	0	121	0	
	雑収入	357	137	△ 220	137	0	137	0	137	0	137	0	
	教育活動収入計 b	8,699	8,634	△ 65	8,654	20	8,539	△ 114	8,579	40	8,605	26	
	事業活動支出の部												
	人件費 c	5,111	4,927	△ 184	4,927	1	4,927	△ 0	4,927	△ 0	4,927	0	
	教育研究経費	2,637	2,858	221	2,693	△ 165	2,705	12	2,708	3	2,695	△ 14	
管理経費	975	963	△ 12	1,023	60	964	△ 59	964	0	1,067	104		
徴収不能額等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
教育活動支出計 d	8,723	8,747	25	8,643	△ 104	8,596	△ 47	8,599	3	8,689	90		
教育活動収支差額		△ 24	△ 114	△ 90	11	124	△ 57	△ 67	△ 20	37	△ 84	△ 64	
教育活動外収支	収入												
	受取利息・配当金	14	10	△ 4	10	0	10	0	10	0	10	0	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	教育活動外収入計 e	14	10	△ 4	10	0	10	0	10	0	10	0	
	支出												
借入金等利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
教育活動外支出計 f	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
教育活動外収支差額		14	10	△ 4	10	0	10	0	10	0	10	0	
経常収支差額		△ 10	△ 104	△ 94	20	124	△ 47	△ 67	△ 10	37	△ 74	△ 64	
特別収支	収入												
	資産売却差額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他の特別収入	178	4	△ 174	4	0	4	0	4	0	4	0	
	特別収入計 g	178	4	△ 174	4	0	4	0	4	0	4	0	
	支出												
資産処分差額	70	12	△ 58	12	0	12	0	12	0	12	0		
その他の特別支出	1	0	△ 1	0	0	0	0	0	0	0	0		
特別支出計 h	71	12	△ 58	12	0	12	0	12	0	12	0		
特別収支差額		107	△ 8	△ 116	△ 8	0	△ 8	0	△ 8	0	△ 8	0	
[予備費]			50	50	50	0	50	0	50	0	50	0	
基本金組入前当年度収支差額 i		97	△ 163	△ 260	△ 38	124	△ 106	△ 67	△ 69	37	△ 133	△ 64	
基本金組入前当年度収支差額 (予備費未使用の場合)			△ 113	△ 113	12	124	△ 56	△ 67	△ 19	37	△ 83	△ 64	
(参考)													
事業活動収入計 b+e+g		8,891	8,647	△ 243	8,667	20	8,553	△ 114	8,593	40	8,619	26	
事業活動支出計 d+f+h		8,794	8,810	16	8,706	△ 104	8,659	△ 47	8,662	3	8,751	90	
収支の実態	事業活動収支差額 i	97	△ 163	△ 260	△ 38	124	△ 106	△ 67	△ 69	37	△ 133	△ 64	
	事業活動収支差額比率 i/(b+e+g)	1.1%	-1.9%	-3.0%	-0.4%	1.4%	-1.2%	-0.8%	-0.8%	0.4%	-1.5%	-0.7%	
	事業活動収支差額比率 (当初予算時)	-2.4%	-1.9%	0.5%	-0.4%	1.4%	-1.2%	-0.8%	-0.8%	0.4%	-1.5%	-0.7%	
収支バランス	人件費依存率 c/a	73.6%	69.5%	-4.1%	69.3%	-0.2%	70.4%	1.1%	70.0%	-0.4%	69.7%	-0.3%	
	人件費比率 c/(b+e)	58.7%	57.0%	-1.7%	56.9%	-0.1%	57.6%	0.8%	57.4%	-0.3%	57.2%	-0.2%	
要因	学生生徒等在籍者数 5/1現在	6,298人	6,209人	△ 89人	6,159人	△ 50人	6,050人	△ 109人	6,092人	42	6,092人	0人	
	減価償却	1,036	1,024	△ 13	1,024	0	1,024	0	1,024	0	1,024	0	
	教育) 減価償却額	951	955	4	955	0	955	0	955	0	955	0	
	管理) 減価償却額	86	69	△ 17	69	0	69	0	69	0	69	0	